# 第33回
# 東西四大学合唱演奏会

# 第33回 東西四大学合唱演奏会

1984.6.16（土） 大阪フェスティバルホール　　主催・東西四大学合唱連盟

## 御挨拶

本日は、御多忙のところ、東西四大学合唱演奏会に御来場下さいまして、ありがとうございます。

昭和27年に第1回演奏会を開いて以来、今年で第33回を数えるに至りました。これもひとえに皆様方の暖かいご支援の賜物と深く感謝しております。

早慶同関というそれぞれまったく違う歴史と伝統を持った東西四大学が一堂に会し、日頃の努力と精進の成果を発表しあうことは、大変素晴らしいことだと考えております。今宵も各団ともその個性をあますところなく発揮し最高の音楽を演奏できましたら、と思っております。

最後になりましたが、本日の演奏会を開催するにあたり、御支援下さいました諸先生、関係者の皆様に厚く御礼申し上げますと共に、今後とも一層の御鞭撻をお願い申し上げます。

東西四大学合唱連盟

## エール交歓

昼の部
慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団
関西学院グリークラブ
早稲田大学グリークラブ
同志社グリークラブ

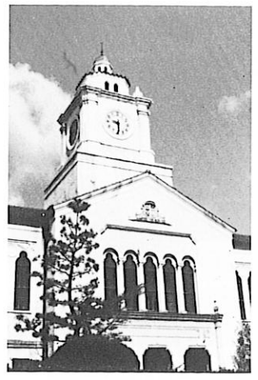
夜の部
早稲田大学グリークラブ
同志社グリークラブ
慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団
関西学院グリークラブ

# 第Ⅰ部

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団
### 「Nänie」(哀悼歌) op.82

作詩　F.シラー
作曲　J.ブラームス
編曲　北村協一
指揮　畑中良輔
ピアノ　三浦洋一

関西学院グリークラブ
### 〈鐘の音を聴け〉
―― 男声合唱のための幻想曲 ――
(本年度委嘱作品)



作詩　エドガー・アラン・ポー
作曲　新実徳英
指揮　北村協一





INTERMISSION

# 第Ⅱ部

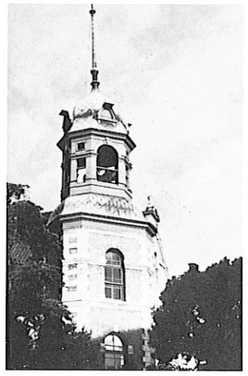
早稲田大学グリークラブ
### 男声四部合唱組曲「青いメッセージ」
～ 草野心平詩集「蛙」より ～
(本年度委嘱作品)

Ⅰ. 月蝕と花火　序詩
Ⅱ. 青ィ花
Ⅲ. "ブルース"婆さん蛙ミミミの挨拶
Ⅳ. サリム自伝
Ⅴ. ごびらっふの独白

作詩　草野心平
作曲　高嶋みどり
指揮　山田一雄
ピアノ　A・ピュイグ・ロジェ

同志社グリークラブ
### 「FOUR AFRO-AMERICAN SONGS」

Ⅰ. Chain-Gang Song
Ⅱ. Railroad Chant
Ⅲ. Lef' Away
Ⅳ. De Glory. Road



指揮　福永陽一郎
ピアノ　久邇之宣

# 第Ⅲ部

合同演奏
### 「シベリウス：6つの合唱曲」op.18

Ⅰ. Sortunut ääni (失われた声)
Ⅱ. Terve kuu (月よ、御気嫌よう)
Ⅲ. Venematka (舟の旅)
Ⅳ. Työnsä kumpasellaki (どちらにも仕事がある)
Ⅴ. Metsämiehen laulu (森の男の歌)
Ⅵ. Sydämeni laulu (我が心の歌)

作曲　J.シベリウス
指揮　渡辺暁雄

■第一部・第二部は昼夜で入れ替え。尚、第三部はそのまま演奏致します。

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団部長　**福岡正夫**

私どもワグネル・ソサィエティー男声合唱団にとりましては、今年も相変らず多彩な活動の年であり、すでに行われた東京六大学合唱連盟定期演奏会のほか、早慶交歓演奏会、ＮＨＫ交響楽団との協演、夏季演奏旅行、そして一年の総決算である12月の定期演奏会など、さまざまなスケジュールが予定されております。こうした演奏活動がつつがなく続けてまいれますのも、日頃お世話になっている諸先生のつねに変らぬ暖かいご指導の賜であり、きょうの演奏会でも、これらのご恩に応えて、魂の歌声が届きますことを心から念じてやみません。

この演奏会も今回が第33回ということですから、四連もいよいよ30有余年の歴史を閲したことになります。このすでに築かれた伝統は、いうまでもなく参加四大学の撓まざる努力をつうじて今後とも維持発展させていかなければならないものですが、同時にそれはまた、お聴きいただく皆様方の熱烈なご協力、ご激励なしには不可能なところであります。何卒旧に倍するご支援をお寄せ下さいますようお願い申し上げまして、ご挨拶といたします。

関西学院グリークラブ顧問　**今田　寛**

関学のキャンパスには二百数十本のクスノキがありますが、今（５月）まさに新葉の時期で、新しい葉に押し出されるようにして落ちた葉の中をがさごそと歩きながら眺める新緑がまことに美しく目にしみる季節です。大学も三月に多くの人が押し出され、四月には多数の新人がさわやかに登場しました。今日共演する四大学の合唱団にも多くのメンバーが加わった事でしょう。四連で共に演ずる東西の四校の合唱団は、生える所を異にしますが四本の大木のように思えます。それぞれに立派な枝ぶりをもって、梢をわたる風の中ですばらしい和音をかなでて周囲を魅了します。しかし枝も葉も立派な根があればこそだと考えますと、四校の合唱団の魅力は、それぞれに見えない所に立派な根をもっている魅力だといえましょう。根をもたないで一時のきらびやかさを見せるクリスマスツリーでは決してありませんし、そうであってはなりません。今日は根の立派さを競いあって下さい。

早稲田大学グリークラブ会長　**上田　稔**

時の流れというものは早いもので、東西四大学合唱演奏会もついに33回目を迎えることになりました。毎年少しづつメンバーが変わっていくという条件のもとで、これだけの長い歳月を常に日本最高と言える水準の演奏を続けているこの四大学の男声合唱団のエネルギーは、やはりただならぬものと言えるでしょう。

さて今回早稲田大学グリークラブは４年振りに新作を委嘱し、初演致します。草野心平氏の「蛙」の詩に気鋭の若手、高嶋みどりさんが作曲して下さいました。そして指揮に山田一雄先生、伴奏にピュイグ＝ロジェ先生という二人の偉大な芸術家を幸福なことにお迎えすることができ、若いグリーメン達はいさゝか興奮気味です。

今宵の演奏会で数々の素晴しい音楽が創造されますことをお祈りすると共に、今後とも宜しく御批判、御指導を賜らんことを皆様にお願い申し上げます。

同志社グリークラブ顧問　**遠藤　彰**

昨夏、同志社グリークラブは、スイス、オーストリア、ハンガリーに演奏旅行を行った。一行がヴィーンの演奏を終えて次の演奏地ザルツブルクへ向っていた時、その途上のSt. Florian修道院の聖堂が、かつてアントン・ブルックナーの弾いていた大オルガンの演奏をもって、われわれを迎えてくれた。グリークラブが、即興的にブルックナーの“Locus Iste.”を歌ったところ、バイエルンから来ていた信者の一行が感に堪えぬ面持ちでつぎつぎに握手を求め、「日本の合唱団が“Locus Iste.”を歌ってくれるとは！」と語りかけた。

この場面は、われわれのグリークラブが今回の欧州の音楽旅行において得ることのできた最大の賜物を十分に象徴してくれるものであった。ブルックナーの日誌には、A，V，S，R等などの符号が多く記入されているが、それらは各種の祈りと回数を示したものであるといわれる。彼にとって音楽はまさに祈りなのであった。この聖堂で彼の曲を心静かに歌ったとき、人びとは、われわれの演奏を通して彼の祈りの声を聴いて感動したのであったと思われる。團伊久磨氏とわれわれのグリークラブが、昨秋あるテレビ局のプログラムで御一緒したことがあるが、その時氏は「音楽は祈りだ」と言われた。この音楽を生み出す人間の内面性の共有共感において音楽を創りまた演奏する姿勢の大切さを、東西四連は日本の合唱音楽界にアピールし続けてほしいと願っている。





## 東西四大学OB合唱連盟

第33回東西四大学合唱連盟定期演奏会に心からおめでとうのメッセージを送ります。私達東西四大学ＯＢ合唱連盟も来年、東京にて第５回定期演奏会を賑々しく開催いたすはこびと相成っております。現役の皆さんにとって毎年の四連のステージは大切なものですが、二年に一度のＯＢ四連のステージは、永遠に青春の思い出を追い続けるＯＢたちにとっては、この上なく大事な意味を持っています。現役諸君が悔いのない青春の１ページを飾って欲しいと願っています。

今宵の演奏会には、私達ＯＢも———言うまでもなく———多大な関心と、絶大なる声援と、万感せまる思い出と、一枚のチケットを胸に客席の片隅で聴きいっております。是非とも素敵な演奏を、少し耳の遠くなりつつある人もいる我々ＯＢのためにも、心に響かせて下さい。

## 関西六大学合唱連盟

此処、大阪の地におきまして、第33回東西四大学合唱演奏会が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

時がたつのは早いもので、この前フェスティバルホールで四大学の演奏を聴かせていただいてから、もう２年の年月が流れ去ってしまいました。あの時に３、４回生だった方はもうすでにブレザーを脱がれ、メンバーの半数が入れ替ったことになります。しかし、メンバーは替っても伝統に支えられた皆様の歌声は以前にも増して高らかに響き渡ることだろうと思います。

さて、最近は東と西の交流も少しずつ多くなり、ジョイントコンサート等もよく行なわれるようになりました。そういった中で、この演奏会の持つ意味が非常に大きなものに感じられるのです。

33回という歴史もさることながら、その間他団に与えた影響は計り知れないものがあると思います。私共「関西六連」の他４校も過去、そして現在におきましても、この演奏会から多くのものを学び取ろうと耳を澄ましております。

最後になりましたが本日の演奏会が皆様にとって素晴らしいものとなりますことをお祈りいたしております。

## 東京六大学合唱連盟

第33回東西四大学合唱演奏会が催されますことを、心からお祝い申し上げます。

紫陽花が咲きそろうこの季節、空から一条の陽光が差し込むかの様に、東西の大学合唱団の目映いばかりの競演が今始まろうとしています。我々は常に東西四連から新しい刺激を受け、体の底から沸き上がる感動を押さえることができず、その波間を漂うのです。それは東西四連のメンバー各個人の歌に対するひたむきな情熱と脈々と流れる伝統からつくられた一つの小宇宙の様にさえ思われるのです。今年は大阪での演奏会でありますが、我々は東京の地から目を見張り、耳を澄まして、遠隔の地からの空を震撼させ、大地に響く歌を聞かせて頂きます。必ずやその歌は我々の内に豊かな感性の世界を広げてくれると確信して。

最後になりましたが、本日の演奏会の御成功を願うと共に、限りない東西の大学交流と貴連盟及び加盟各合唱団の一層の御発展を心よりお祈り申し上げます。

## 神戸女学院大学コーラス部

第33回東西四大学合唱演奏会の御開催を心よりお慶び申し上げます。

萌え出でた若葉もつややかさを増し、まさに夏に向かおうとするこの季節に、この先一年合唱に携わる実に多くの人々をゆさぶり、鼓舞するにちがいない貴重な演奏を聴かせていただけますことを大変嬉しく思っております。　東と西に、まず遠く隔たり、それぞれ違った空気の中で独自のカラーを描きながら、なお高いところでの融合が可能だということを、今年も私たちの目の前にまざまざと見せて下さることでしょう。それがどれほど深く澄みきったつながりであるかを考えると、心の中でさらりと何かが溶け去るような、そんな清々しさを覚えます。

最後に、本日の演奏会の御成功と、今後なお一層の御発展をお祈り申し上げます。

## 甲南女子大学コーラス部

第33回東西四大学合唱演奏会を迎えられますことを、心からお祝い申し上げます。長かった梅雨もあと少し、ようやく初夏の光々とした陽射しや清爽な風と共に、皆様方の心のこもった力強い歌声を聴かせて頂ける日がやって参りましたことを、大変嬉しく思っております。

関東と関西という距離的に離れた地にありながら、今年で第33回目という素晴らしい伝統を築き上げてこられましたのは、皆様方の並々ならぬ努力と、合唱に対する情熱の深さ故と存じます。今宵、皆様方が胸に熱い思いで奏でられます素晴らしいハーモニーは、同じ学生であり合唱を志す者として、私達にも学ぶところの多い演奏となりますことを心から信じております。

最後に、本日の演奏会の御成功と、今後一層の御発展を心からお祈り致しております。

## 日本女子大学合唱団

第33回東西四大学合唱演奏会の御開催、心よりお慶び申し上げます。

今年もまた初夏の風と伴に、演奏会の季節が訪れました。この時期、私どもの胸がおどるのは、夏を迎えることの高ぶりだけではありません。関東、関西と距離のへだたりはあるものの、こうして四大学の方々の歌を愛する心が、一度に会し、花を咲かせるこの演奏会への大きな期待があるからなのでございます。そして、音楽に対する厳しさ、正確さを持ち、日々たゆまぬ努力を続けられるそのお姿に、感動せずにはいられません。今日、皆様方の心からのメッセージを受けられることを、楽しみにしております。最後になりましたが、本日の演奏会の御成功と、今後の益々の御発展をお祈り申し上げます。

## 聖心女子大学グリークラブ

第33回東西四大学合唱演奏会の御開催を心よりお喜び申し上げます。

美しい新緑の中で、皆様方の素晴らしい歌声が響きわたります今日の日を、私共は心待ちにしておりました。

それぞれに輝かしい伝統を持ち、なお幅広い活躍を続けておられます皆様は、今、関東・関西という地理的隔たりを越え、音楽という絆で固く結ばれることと存じます。そして、皆様方の織りなすハーモニーは、会場全体を深い感動で包むことでございましょう。

最後になりましたが、本日の演奏会の御成功と、今後の一層の御発展を心よりお祈り申し上げます。

# 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団
# 「Nänie」(哀悼歌) op.82

## ブラームスとNänie

ヨハネス・ブラームスは、1833年5月7日にハンブルグで生れた。彼の音楽は当時のリストやワーグナーによる新しい音楽とは異なり、古典的傾向を持つものであった。

Nänie op. 82は、本来管弦楽伴奏による混声合唱のための作品である。この曲は、1880年から翌年にかけて作曲されたものだが、友人で画家であったアンゼルム・フォイエルバッハの死に追悼をはせて作曲されたものである。ギリシャの神々への哀悼の歌とも言えるこの曲は、全体が単純なabaの形式から出来上っており、ポリフォニックな部分とホモフォニックな部分がうまく組み合され、美しい転調に彩られている。

この曲の初演は、1881年12月6日チューリッヒの楽友協会主催の特別演奏会で作者自身の指揮で行なわれた。

## シラーとNänieについて

F:シラー(1759〜1805) はゲーテと並んでドイツ古典主義の完成者と称される詩人・劇作家である。代表作は、劇では「群盗」「たくらみと恋」が、詩では「第九」で知られている「歓喜に寄す」がある。この「哀悼歌」は1800年に初演、「悲歌」の中の一篇である。

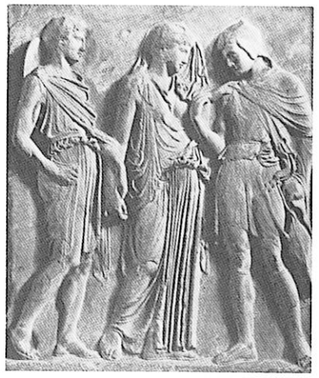
抑々 Nänieとは古代ローマで葬礼の際に家族の女性が歌ったフリギア音階、教会旋法のそれとは別のものであり、ドリア旋法に相当する音階である。)による嘆きの歌であるが、シラーはこの題に相応しくギリシャ神話に取材し、愛する者の死を嘆いた三つの有名な話によって詩を構成している。

歌人オルペウスは妻エウリュディケーの死を悲しみ、冥界へ降りてゆき竪琴を弾き語って冥王ハーデース(注1にあるツォイスのこと)を感動させ、妻を連れ帰ってもよいという承諾を得るが、地上に出るまで後からついて来る妻の方を振り返ってはならぬという冥王との約束に背いたため、妻を取り戻すことが許されなかった。(注2)

美の女神アフロディーテの寵児であった美少年アドーニスは狩の最中に猪に襲われて死んだ。彼女はアドーニスの流した血からアネモネ(一説では薔薇)を咲き出でさせ、彼の死を嘆き悲しんだ。(注3)

英雄アキレウスはトロイ戦争におけるギリシャ軍の勇将であった。彼は不死身であったが、攻囲戦の最中にトロイ王子パリスに唯一の弱点である踵を射られて死んでしまった。彼の母神テティスは姉妹ネーレイスたちと共に彼の死を悼んだ。(注4)

ここでシラーは単に死者の生命の浄化をテーマとするだけでなく、死を美に対する観念をも表出している。それは冒頭の命題と呼応するものであり、滅びの中で美と永遠性を見事に調和させたものである。



### 哀悼歌

人々と神々を感服させた美しいものもまた死ななければならない。
それは冥府の王ツォイス(注1)の堅き心を動かしはしない。
唯一度、愛が冥府の支配者の心を和らげたが、
冥府の出口で、王はその贈りものを厳しくも呼び戻してしまった。(注2)
残酷にも猪に愛らしい身体を突き裂かれたアドーニス(注3)の傷を
アフロディーテさえ癒すことができなかった。

神々しい英雄アキレウス(注4)がトロイのスカイヤ門で斃れ、運命が満ちた時、
彼の不死なる母も彼を救えなかった。
しかし彼女はネロイスの全ての娘たちと諧(とも)に神から立ちのぼり、
替えられた息子のために嘆きの歌を歌い始める。
見よ、美しいものが移ろい、完全なものが滅びるのを
神々は涙し、全ての女神は泣いている。
愛する者の口に嘆きの歌があることもまた素晴らしい。
何故ならば野卑なものは嘆きの歌もなく冥界へとおりていくのだから。

### Nänie

Auch das Schöne muß sterben, das Menschen und Götter bezwinget!
Nicht die eherne Brust rührt es des stygischen Zeus.
Einmal nur erweichte die Liebe den Schattenbeherrscher,
Und an der Schwelle noch, streng, rief er zurück sein Geschenk.
Nicht stillt Aphrodite dem schönen Knaben die Wunde,
Die in den zierlichen Leib grausam der Eber geritzt.

Nicht errettet den göttlichen Held die unsterbliche Mutter,
Wenn er, am skäischen Tor fallend, sein Schicksal erfüllt.
Aber sie steigt aus dem Meer mit allen Töchtern des Nereus,
Und die Klage hebt an um den verherrlichten Sohn.
Siehe, da weinen die Götter, es weinen die Göttinnen alle,
Daß das Schöne vergeht, daß das Vollkommene stirbt.
Auch ein Klaglied zu sein im Mund der Geliebten ist herrlich,
Denn das Gemeine geht klanglos zum Orkus hinab.





# KEIO GIJUKU WAGNER SOCIETY MALE CHOIR

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団専任指揮者・**畑中良輔**

昭和18年、東京音楽学校を卒業される。沢崎定之、ウーファーペーニッヒ両氏に師事された。オペラ歌手として「フィガロの結婚」のフィガロ役、「魔笛」のパパゲーノ役などで活躍され、そのモーツァルト解釈には定評がある。現在、東京芸術大学で教鞭をとられる一方、二期会、評論活動など幅広く、活躍されている。また、かつて日本に定着しなかった室内歌劇上演の運動に力を入れて、《東京室内歌劇場》の設立運営にあたられ、新しいオペラ分野の開拓に努力されている。先生がワグネルの専任指揮者に就任されてから20年になるが、この間発声を重視され、いわゆる“ワグネル・トーン”を生み出された。日頃、「美しいものは何の努力もなしには得られない」「合唱を通じて、世界の音楽への眼を開け」とおっしゃる先生は、世界中の歌曲・オペラ・ミュージカルの編曲物を積極的に取り上げられ、今ではそれらの合唱曲が各合唱団のレパートリーとして定着していることは、特筆に値する。

### 第33回東西四連に寄せて

木下先生のあとを引継いで、《東西四連》は今回で二度目の棒です。昨年は東京での四連でしたので、《早慶》というのは初めて—ということになります。この年になって、やっと“デビュー”させていただくわけです。

《四連》は伝統的にドイツものを主流に学んで来ましたので、この線に当分沿って行きたいと考えています。音というものを、ただ感覚的につかまえるのではなく、音自体の持つ意味、その《音》を素材としての運動、集積、機能を通して、音楽というものが、人間の精神にどのようにかかわって行くものなのかを、明確にしてくれるのは、やはりドイツ音楽だと考えられるからです。

それには、私は何としてもブラームスの作品が最高だと思うのです。ブラームスはちょっと聴いただけでは美しくありませんし、何やら晦渋で、決して快い音楽ではありません。

しかし毎日の練習のくりかえしの中から次第に見えてくるもの、感じられて来るもの、それらが音楽的思考となって、一人一人にすばらしい“体験”を与えてくれるようになる筈なのです。私の十代の終りから二十代にかけては、ブラームスは苦手の作曲家でした。いつも跳ね返されました。甘い気持を見抜かれていたのでしょう。

“美”の本質を悼むシラーの名作に対するブラームスのこの曲の完璧さを歌うには、まだワグネルは力不足ですが、何とかブラームスに近づくように、誠実な練習を繰り返したいと思っています。

**畑中良輔**

ピアニスト・**三浦洋一**

昭和30年東京芸術大学ピアノ科卒業。ピアノを遠山つや、ハンス・カン両氏に師事された。歌曲及び合唱の伴奏者として、日本の第一人者とされており、演奏会に、レコードにと、その活躍はきわめて多彩である。そのピアノ伴奏は共演する声楽家の特質を深く把握し、微妙なニュアンスに富み、するどい感性のひらめきをうかがわせるみごとなものとして、高い評価をうけている。レパートリーも古典から現代曲までと大変広く、そのいずれに対しても充実した力量とみずみずしい情感とをうかがわせる、日本の代表的伴奏ピアニストである。日本の声楽家のみならず、バスティアニーニ(伊)、ロッツレメーニ(伊)、タリアビーニ(伊)、ジュリアスベイガー(米)、その他の外来演奏家の来日公演のピアノ伴奏を行っており、楽界から高い賞賛を得ている。

# 関西学院グリークラブ

## 〈鐘の音を聴け〉—男声合唱のための幻想曲—

### 鐘の音を聴け

新実徳英

この曲は関西学院グリークラブの委嘱作品で、〈ことばあそびうたⅡ〉、〈マドリガルⅠ〉、〈祈り〉、〈祈りの虹〉、〈やさしい魚〉(混声合唱からの編曲)に次ぐ六つめの男声合唱作品である。

エドガー・A・ポーの魅力について語るのは別の機会に譲るとして、私がこのテキストをとり上げた理由を簡単に書いてみると次のようになる。

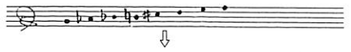
1．ポー特有の幻想をどのように私の音で詩り得るか。
2．日本の詩とは異るレトリックの数々がどのように音楽と結びつき得るのか。
3．四章から成るこの詩によって音楽の面でも緊密に展開して四楽章を構成し得るのではないか。

ざっと以上のような試みを私に可能にさせてくれそうだったからである。

テーマ・構成に関して以下簡略に記しておく。

〔Ⅰ〕(＝呈示部)において二種のモード(旋法)と二つのコラール(的)テーマが呈示される。

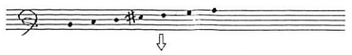
mode Ⅰ
(8音による)



⇩

(各種音型，メロディライン，和音列，Choral Ⅱ)

mode Ⅱ
(7音による)

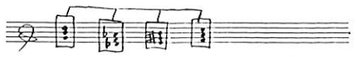


⇩

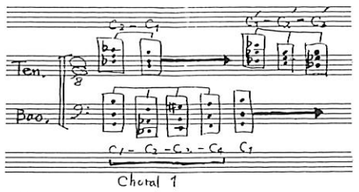
〔モード・クラスター，Choral Ⅱ〕

Choral Ⅰ
(単一コード)

Choral Ⅱ
(四つのコード)



これは実際には次のようなポリ・コード風の組合せで登場する。




曲の全ては上記に示された四つの要素から抽出されている。これらが曲の基本原理であると言い換えてもよい。

全体の構造は次のようになっている。(各章ごとの切れ目はない。)

〔Ⅰ〕：呈示部　〔Ⅱ〕：第１展開部　〔Ⅲ〕：第２展開部　〔Ⅳ〕：再現部と第３展開部、及びコーダ

ソナタ形式に準ずるものとして理解し得るし、或いは複雑な変奏形式として捉えることもできる。

### メッセージ

1978年６月、〈四連〉、〈関学グリー＝北村協一〉、〈フェスティバルホール〉と全て同じづくめで私の最初の男声合唱曲〈ことばあそびうたⅡ〉が初演された。今、〈The Bells〉の初演に当たり、その時のこと、経過した時間のことを思うと感無量である。

英詩を扱うことの困難に加え、他の作曲活動、演奏活動もあり曲の完成が大幅に遅れてしまった。〔Ⅳ〕が関学グリーに届いたのは５月11日頃であろう。この場を借りて演奏して下さる皆さんにお詫びする次第である。が、時間のハンディキャップを乗り越え、関学グリーと北村協一氏があの〈ことばあそびうたⅡ〉の初演の時の名演以上の演奏をして下さるにちがいない、と作曲家は身勝手にも期待し、また信じているのである。(1984年５月18日　東京、東中野にて)

**新実徳英**

### 新実徳英　プロフィール

1947年名古屋に生まれる。

1970年、東京大学工学部機械工学科を卒業、東京芸術大学音楽学部作曲科に入学。

新実先生と合唱との付き合いは高校の時からで、合唱の練習場を軽い気持ちでのぞいてみた時からであるという。合唱の虜となってしまった新実先生は、大学を〈コール・めぐ〉のある東京に選ぶ。大学の合格発表を見るより先に入団試験を受けたという。

〈コール・めぐ〉の五年間の内に、大中先生、ピアノの三浦先生、合唱団から多くを吸収し、作曲家を志すようになる。

1975年　東京芸術大学卒業。1978年　同大学院卒業。　三善晃、野田暉行、矢代秋雄、間宮芳生の各氏に師事する。

新実先生の代表作に「アンラサージュ」がある。「アンラサージュⅠ——合唱と管弦楽のために——」(ジュネーブ国際バレエ音楽コンクール、グランプリ並びにジュネーブ市賞受賞)「アンラサージュⅡ——３人の打楽器奏者のために——」「アンラサージュⅢ——２人のマリンバと打楽器のために——」「アンラサージュⅣ——四群の女声(児童)合唱のためのヴォーカリーズ——」(1982年文化庁舞台芸術創作奨励特別賞受賞)と続く、この「アンラサージュ」シリーズは、アンラサージュ(からみ合うこと)という題名が意味する通り、異なる音色を持つ楽器群、演奏群、あるいは声部が、対比的にというより互いに重なり合い新鮮な効果を生みだしている。この様な手法は、新実作品の随所に見られるものである。





# KWANSEI GAKUIN GLEE CLUB

### 北村協一

北村協一先生は、私共関西学院グリークラブに無くてはならない先生です。ただ一つだけ困る事には、先生は文章を書くのがお嫌いのようで、それゆえに、私がこのような駄文を載せねばなりません。ただ、日頃の先生を見ていると、それも当然と思わせられる事もあります。発想が柔軟で幅広く活動しておられる先生には、わずかな紙面ではお考えを表現し切れないのでしょう。事務室で、もたもた仕事しているマネージャーを指導して下さったり、目が悪くなると姿勢まで注意して下さったり…何だか指揮者としてだけでなく、私共にとっては、大学四年間の全ての面での指導者のような立場におられる先生の、優しさと情熱と厳しさ、私の筆などより本日のステージ上で御覧頂いた方が良いようです。

### プロフィール

昭和29年、関西学院大学経済学部卒業。在学中、関西学院グリークラブの指揮者として活躍。卒業後東京コラリアーズ入団。昭和36年藤原歌劇団入団、昭和38年同団によるプッチーニ「外套」を指揮し、昭和40年退団、昭和43年、二期会合唱団常任指揮、昭和45年二期会専属指揮者となる。第６回文化庁芸術家海外派遣研修生として昭和48年渡欧。

森正、今村征男の各氏に師事。現在、国立オペラ研修所講師、愛知芸術大学講師、東京室内歌劇場、二期会合唱団指揮者。

1. 聞けよかし、鈴をつけたる橇の音——
その白銀の鈴をこそ—
その調、いかに楽しき世の様を語るや—
夜の凍てる大気の中に、りんりんと鳴り亙り、
空を占めてまき散れる星屑また、
透ける水晶の喜びもてきらめくなれ。——
そは古の北欧の調に似たる
鐘また鐘、鐘また鐘
鐘のすずしき鳴動より湧き出づる
いとも妙なる調に拍子合せて。

2. 聞けよかし、たおやかなる婚礼の鐘、
その黄金の鐘をこそ—
良き調、いかに幸ある世をば告ぐるぞ——
かぐわしき夜気を渡りて
喜びこそ鳴り響くなれ。
調整える、溶けし黄金の音色より
喜び、高く鳴り亙るなれ！
月を眺むる雉鳩も
妙なる曲に耳傾けつ。
どよめく小屋より
心地よき鐘の音豊かにも湧き、
とどろくよ、
とどろくよ、未来にまで。
音色は喜びを語り、
喜びは揺れひろごる鐘の音に
更に高まり行く。
鐘また鐘、鐘また鐘、
その鐘の音の諧調に。

3. 聞けよかし、高らかなる警鐘——
その真鍮の鐘をこそ—　驚く夜の耳に
乱がしきその音、
いかに恐ろしさを語るぞ—
いかに人の怖じ竦ぐや、
恐怖に語るべき言葉を失い、
ただ落着乱して泣き叫ぶのみ。
狂に狂し求めんとて喚き、
聞く耳貸さぬ酷き火に焦おしく訴うなれ。
高く、いと高く飛び立ち、
必死の願いと堅き努力、
今はや、蒼白き月の面に
届き得しや、否や。
おお、鐘また鐘、鐘また鐘—
その恐怖、いかなる絶望をか物語る—
鐘は鳴り、鐘は響き、鐘はうめく—
波打つ大気の胸の上に、
そは恐怖をふりそそぐなれ。
されどその響、そのうめきに、
危険の干満を耳よく悟る。
げに耳よく知るよ、
そのとどろき、そのはためきに、
はた、鐘の音の怒りの起伏に、
いかに危険が去来するかを—
その鐘の音の——
鐘また鐘、鐘また鐘——
鐘のうめきととどろきに。

4. 聞けよかし、鳴りいずる鐘の音——
その黒金の鐘をこそ！
夜の沈黙にその挽歌
いかに貴き思想を強いるぞ。
わびしくも人に迫るその調に、
われら怖じおののくなれ！
錆びし喉より鳴り出づるその音
ことごとく呻きなれば。
人皆——おお、人皆なれ、
尖塔にさびしく住み、
抑え、控えし単調さにて
鐘鳴らし、また鐘鳴らし、
人の心を石もて打つを誇りとすなれ。
そは男にあらず、女にあらず、
人にもあらず、獣にもあらず、
死屍を食らう鬼にこそ。
鐘うち鳴らすはその王にして、
鐘たたき、またたたき、
勝利の歌うたうなれ。
その勝利の歌につれ、
胸は喜びに溢れ、
王は踊り、王は叫ぶ。
古の北欧の調に似たる
鐘の勝利の音に拍子合せつ——
古の北欧の調にも似て、
鐘の響に拍子合せつ——
鐘また鐘、鐘また鐘——
鐘のとどろきに拍子合せつ。
王は弔いの鐘うち鳴らす、
古の北欧の楽しき調にて
鐘のとどろきに拍子合せつ——
鐘また鐘、鐘また鐘、
鐘のとどろきに拍子合せつ——
鐘また鐘、鐘また鐘
鐘のうめきに、とどろきに。

I.
Hear the sledges with the bells –
Silver bells!
What a world of merriment their melody
foretells!
How they tinkle, tinkle, tinkle,
In the icy air of night!
While the stars that oversprinkle
All the heavens, seem to twinkle
With a. crystalline delight;
Keeping time, time, time,
In a sort of Runic rhyme
To the tintinnabulation that so musically wells.
From the bells, bells, bells, bells,
Bells, bells, bells –
Form the jingling and the tinkling of the bells.

II.
Hear the mellow wedding bells,
Golden bells!
What a world of happiness their harmony
foretells!
Through the balmy air of night
How they ring out their delight! –
From the molten-golden notes,
And all in tune,
What a liquid ditty floats
To the turtle-dove that listens,
while she gloats
On the moon!
Oh, from out the sounding cells,
What a gush of euphony
voluminously wells!
How it swells!
How it dwells
On the Future! – how it tells
Of the rapture that impels
To the swinging and the ringing
Of the bells, bells, bells –
Of the bells, bells, bells, bells,
Bells, bells, bells –
To the rhyming and the chiming of the bells!

III.
Hear the loud alarum bells –
Brazen bells!
What a tale of terror, now their
turbulency tells!
In the startled car of night
How they scream out their affright!
Too much horrified to speak,
They can only shriek, shriek,
Out of tune,
In a clamorous appealing to the
mercy of the fire,
In a mad expostulation with the
deaf and frantic fire,
Leaping higher, higher, higher,
With a desperate desire,
And a resolute endcavour
Now – now to sit, or never,
By the side of the pale-faced moon.
Oh, the bells, bells, bells!
What a tale their terror tells
Of Despair!
How they clang, and clash, and clash, and
roar!
What a horror they outpour
On the bosom of the palpitating air!
Yet the car, it fully knows,
By the twanging,
And the clanging,
How the danger ebbs and flows;
Yet the ear distinctly tells,
In the jangling,
And the wrangling,
How the danger sinks and swells,
By the sinking or the swelling in the anger
of the bells –
Of the bells –
Of the bells, bells, bells, bells,
Bells, bells, bells –
In the clamour and the clanging of the bells!

IV.
Hear the tolling of the bells –
Iron bells!
What a world of solemn thought their
monody compels
In the silence of the night,
How we shiver with affright
At the melancholy menace of their tone!
For every sound that floats
From the rust within their throats
Is a groan,

And the people – ah, the people –
They that dwell up in the steeple,
All alone,
And who, tolling, tolling, tolling,
In that muffled monotone,
Feel a glory in so rolling
On the human heart a stone –
They are neither man nor woman –
They are neither brute nor human –
They are Ghouls: –
And their king it is who tolls: –
And he rolls, rolls, rolls,
Rolls

A pæan from the bells!
And his merry bosom swells.
With the pæan of the bells!
And he dances, and he yells;
Keeping time, time, time,
In a sort of Runic rhyme,
To the pæan of the bells: –
Of the bells:

Keeping time, time, time
In a sort of Runic rhyme,
To the throbbing of the bells –
Of the bells, bells, bells –
To the sobbing of the bells: –
Keeping time, time, time,
As he knells, knells, knells,
In a happy Runic rhyme,
To the rolling of the bells –
Of the bells, bells, bells: –
To the tolling of the bells –
Of the bells, bells, bells, bells,
Bells, bells, bells –
To the moaning and the groaning of the bells.

日本語訳詩　エドガア・アラン・ポオ全集 第６巻
昭和45年６月30日　新装版第一刷発行
訳者　谷崎精二　発行者　鷲尾　賞
発行所　株式会社　春秋社

# 早稲田大学グリークラブ

## 男声四部合唱組曲「青いメッセージ」—草野心平詩集「蛙」より—

### 「青いメッセージ」へのメッセージ　草野心平

この度、私の蛙に関する五篇の詩が「青いメッセージ」と一括題名されまして、早稲田大学グリークラブの男声合唱団によって公開される由、詩作者としての私にとりまして、このことは本当に嬉しく且つ光栄に存ずる次第であります。

作曲されました五篇の作品は数多い蛙作品のなかでも私自身好きな作品ですし、「青いメッセージ」の一括題名も蛙たちは大賛成だと思われます。

皆さんの大合唱が美しい大きな波になって蛙たちの世界まで、恐らくはとどくことでしょう。猶、この機に際しまして、作曲、指揮、伴奏の皆々様に、この紙上をかりまして、深い深い感謝の意を受けとっていただきたいと乞い願う次第であります。

一九八四・五・五

### ばらあら　ばらあ　高嶋みどり

これほど適確に、生命を謳歌した言葉があるでしょうか。おまじないのように、「ばらあら　ばらあ、ばらあら　ばらあ、ばらあらばらあ……」、と繰り返し繰り返し声に出して唱えていると、「人生、まっ、いろいろあるものサ！」なんて、瑣末な事件など、どこかにふっとんでいってしまいます。

ごびらっふは、正に、人生（蛙生？）を達観しとるのであります！

実は、これらの詩での作曲は、今までにも何回か試みてきたのですが、今回やっと、一つの形を成す事ができました。ですから、これは、この数年来の、私の大きな課題だったと思います。複重線を引いたのが、私の○○才になった日である事も考え合せると、この作品は、私の人生にとっての、大きな節目であるような気がします。

作品は５曲から成り、１曲目は、序、の役割を持ち、２・３・４曲目は、死、がテーマとなっています。５曲目は、春殖の詩を導入として用いた事も含めて、讃歌、となっています。

今回の作曲の機をお与え下さり、音楽上の事にとどまらぬ、優しく包み込むような暖かい御助言を戴いております、山田一雄先生に心から尊敬と感謝の念でいっぱいです。その上、ピアノをピュイグ・ロジェ先生にお願いできるという幸運な初演を迎える事ができまして、またしても、人生、ばらあら　ばらあだな～、と実感しております。

早稲田大学グリークラブの、はち切れんばかりの若さと情熱から噴出するエネルギーに満ち溢れた演奏に、期待いたしております。

### 高嶋みどり　プロフィール

東京芸術大学作曲科、同大学院修了。 '78年度、神奈川県芸術祭作曲コンクール第１位。山田一雄、石桁真礼生、間宮芳生、末吉保雄、浦田健次郎、丸田昭三、各氏に師事。

〔主要作品〕ピアノのためのラプソディー、ピアノ協奏曲、管弦楽のためのラメンタッツォ、oboe. arpa. celloのためのラメンタッツォ、管弦楽のための悲歌、他。

〔主要合唱作品〕混声合唱組曲「愛のプロローグ」男声四部合唱のための「かみさまへのてがみ」女声合唱のための「地下鉄のオルフェ」女声合唱のための「歌ひとつ」他。

**Ⅰ．月蝕と花火　序詩**

蛙よ
口笛をふいて
寂しい月蝕をよべ
花火をかこんで
青い冷や酒を傾けよう

**Ⅱ．青ィ花**

トテモキレイナ花。
イッパイデス。
イイニホヒ。イッパイ。
オモイクラ丼。
オ母サン。
ボク。
カヘリマセン。
泥ノ水ロノ。
アスコノオモダカノネモトカラ。
ボク。トンダラ。
ヘビノ眼ヒカッタ。
ボクソレカラ。
忘レチャッタ。
オ母サン。
サヨナラ。
大キナ青イ花モエテマス。

**Ⅲ．“ブルース”姿さん蛙ミミミの挨拶**

地球さま。
永いことお世話さまでした。
　　さやうならで御座います。
ありがたう御座いました。
さやうならで御座います。
　　さやうなら。

**Ⅳ．サリム自伝**

平和のための戦争である。
戦争をするのは平和のためである。
人民あるいは人類のためにその平和のために
人民を殺さなければならない。
人を殺すのはすべて平和のためであり人を殺すためではない。
人を殺すためではないが人を殺すのである。
話はいよいよこみいってきて人を殺す遊戯も
平然はじまるのである。
おれのふるさとソンミ。
ソンミでの大虐殺も平和のためだといわれている。
右腕のつけ根をノコギリで切られた男もいる。
ザクロの乳房。
マニラ麻の縄で胴っ腹や首や手首をつながれ。
ジュズつなぎにされ。（すべて平和のために！）
銃口がむけられ。
ｄｄｄｄｄｄ　ｄｄ
ｄｄｄｄｄｄ　ｄｄｄｄｄｄｄｄ　ｄｄｄ
おれはそのとき。
小川の流れている原っぱに逃げる筈だったが。
あわてて逆に。
倒れかさなった半死人たちの下積みになり
腹がやぶけた。
おれにも成仏はない。
大きなコウモリに化けてソンミの空をとんでいる。
いまでも。
だれもおれに気がつかないようだが。
大きな黒いコウモリになって。





# WASEDA UNIVERSITY GLEE CLUB

### 山田一雄　プロフィール

東京生れ、学習院を経て東京音楽学校へ。ピアノ・作曲を学ぶ。1935年よりピアニスト作曲家として活躍。1937年日本放送協会賞、翌年新響賞、ワインガルトナー賞をそれぞれ受賞。その間、指揮法をヨゼフ・ローゼンシュトックに学ぶ。1940年新響（現Ｎ響）の常任指揮者に迎えられ、以後13年間、同団の飛躍的向上に寄与。この間〈春の祭典〉〈千人の交響曲〉など多数の初演を行った。1955年以後は東西ドイツ、ソビエト、チェコ、イスラエル、アメリカなど海外の活動も多繁となる。その後芸大指揮科教授も務め、1972年より京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者。1976年紫綬褒章受賞。

現在は京響芸術顧問、新星日響名誉指揮者、日本合唱協会音楽監督、日本マーラー協会理事長などを務める一方、ＮＨＫ交響楽団、東京都交響楽団、国外の諸交響楽団などの客演指揮者としての多忙な活動で屈指の名演を展開している。

**空のかご一ぱい**

忙しさのあまり桜の開花にも気づかずじまいで過ごしたとしても、今年はそれにも増して十分に幸福だなと思うことは、早慶同関の男声の幾重もの花びらたちの中で息づけることだ。こちらが何だか踊り出したい気分だ。きみ達のあの響きを聞くと、太古からの億万という無数のひとびとの静かな祈りがひそんでいるような、そして歴史の芳香をはなつホンモノの響き。きみ達はソットひそかにその前世紀の『鍵』をポケットに忍ばせて生れて来たみたい……。

わたしにとってのもう一つの幸福は、作曲家・高嶋みどりさんの新作品と語り合えることだ。何年前か初めて彼女の作曲と出逢ったときの驚きといえば、天から見えない楽器たちが降ってくる思いだった。その膨らんだ息とたましいは、また空の星々と戦うように遊んでいたではないか……。

その「みどり」と「きみ達」が、お互いに光り合って、六月の空のかご一ぱいゆらめかそうという、今回はいとも心憎き仕組みらしい。

山田一雄

### ピアノ　アンリエット・ピュイグ=ロジェ　プロフィール

パリ音楽院でピアノ、和声、対位法とフーガ、オルガンと即興演奏（オルガン科ではメシアンと同級）、音楽史、作曲を学び、パリ・オペラ座の練習指揮者、フランス国立放送局専属芸術家、シナゴーグ教会堂の正オルガニストをつとめ、1957年にブーランジェの後任としてパリ音楽院の伴奏科教授となり、1979年にパリ音楽院名誉教授となる。1982年秋より東京芸術大学客員教授として来日中。レコード録音も多く、「フォーレ・レクイエム」クュイタンス盤、バレンボイム盤において、F＝ディースカウらと共演。ソロ・アルバムとしては、「フランス・ピアノ音楽のエスプリ」（ＣＢＳ）他。伴奏盤としては、「嶺貞子・イタリア古典歌曲集」「秋山和慶指揮・日唱による萩原英彦作品集」など多数あり、各方面で絶賛を博している。

**Ⅴ．ごびらっふの独白**

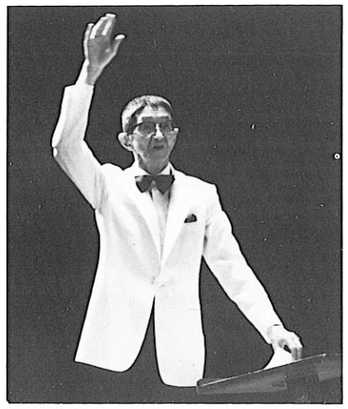
春殖　るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

るてえる　びる　もれとりり　がいく。
ぐう　であとびん　むはありんく　るてえる。
けえる　さみんだ　げらげれんで。
くろおむ　てやらあ　ろん　るるむ　かみ　う　りりうむ。
なみかんた　りんり。
なみかんたい　りんり　もろうふ　ける　げんけ　しらすてえる。
けるぱ　うりりる　うりりる　びる　るてえる。
きり　ろうふ　ぷりりん　びる　けんせりあ。
じゅろうで　いろあ　ぽらあむ　でる　あんぷりりよ。
ぶう　せりを　てる。りりん　てる。ぽろびいろ　てる。
ぐう　しありる　う　ぐらびら　とれも　でる　ぐりせりや
るとうる　ける　ありたぷりあ。
ぶう　かんせりて　る　りりかんだ　う　きんきたんげ。
ぐうら　しありるだ　けんた　るてえる　とれかんだ。
いい　げるせいた。でるけ　ぷりむ　かにこん　りんり。
おりぢぐらん　う　ぐうて　たんたけえる。
びる　さりを　とうかんてりを。いい　びりやん　げるせえた。
ばらあら　ばらあ。
幸福といふものはたわいなくっていいものだ。
おれはいま土のなかの鶯のやうな幸福につつまれてゐる。
地上の夏の大歓喜の。
夜ひる眠らない馬力のはてに暗闇のなかの世界がくる。
みんな孤独で。
みんなの孤独が通じあふたしかな存在をほのぼの意識し。
うつらうつらの日をすごすことは幸福である。
この設計は神に通ずるわれわれの。
俤羅紀の先祖がやってくれた。
考へることをしないこと。素直なこと。夢をみること。
地上の動物のなかで最も永い歴史をわれわれがもってゐると
いふことは平凡ではあるが偉大である。とおれは思ふ。
悲劇とか痛憤とかそんな道程のことではない。
われわれはただたわいない幸福をこそうれしいとする。
ああ虹が。おれの孤独に虹がみえる。
おれの簡単な脳の組織は。
言はば即ち天である。美しい虹だ。
ばらあら　ばらあ。

# 同志社グリークラブ

## 「FOUR AFRO-AMERICAN SONGS」

### 福永陽一郎 プロフィール



1926年神戸に生まれる。東京音楽学校（現・芸大）本科ピアノ科出身。井口基成、豊増昇氏にピアノを師事。存学中より東宝交響楽団（現・東響）で近衛秀麿氏の助手をつとめ、同氏に作曲法、指揮法、管弦楽法を師事。M・グリット氏にオペラ指揮法を師事。

1951年藤原歌劇団に入団、同団常任指揮者として'65年まで活躍。その間同団第三次渡米公演に同行。また'59・'61・'63・'71年のNHKイタリア・オペラ来日公演に際しては、日本側代表指揮者として参加、副指揮・合唱指揮をつとめる。歌劇指揮者として広くその名を知られる一方、合唱界においても、'52年畑中良輔氏と共に東京コラリアーズを設立し日本最高のプロの合唱団に育て、またアマチュア・コーラスを30年にわたり積極的に指導。

又、評論活動も多くの人々から注目をされ、著書に「演奏の時代」（紀伊国屋書店）、「私のレコード棚から」（音楽之友社）がある。合唱用の編曲は数百曲にも及ぶ。同志社グリー、早稲田グリー、法政アカデミー他、多くの合唱団を指揮する一方、藤沢市民交響楽団の常任指揮者をつとめ、'80年の藤沢市民オペラ「カルメン」の上演は多大な反響を呼んだ。

### メッセージ

東西四連のステージは、それぞれプライドのある合唱団にとっても、たいへんな緊張をともなうものだが、指揮者もまた、その合唱団のベストを現出しようと、普段以上にみずからにきびしくなるのではないだろうか。昨年は、全部で五人のうち、私より年長の指揮者は一人だけであった。今年は反対に、私より年下の指揮者が一人だけで、私など諸先生の中では若輩である。しかし、だからといって気が楽になるものでもない。

私は最近とみに、合唱の出発点にもどるということを考えるようになった。人が歌をうたい、同じ音で、あるいは別の音で声を合わせる、そのことの楽しさと、心（気持・感情・感覚）が自分以外の人と一致した感激こそが合唱の極意であると、あらためて思うのだ。新手法や難曲に苦労したあげく、音楽的満足でなく征服欲の満足で終ってしまうむなしさを、自分の周辺だけでも無くしてゆきたいと思う。

今年の四大学では、先日の東京六大学に続いて、いわゆる「昔の」レパートリーを採り上げた。合唱の基本的なよろこびを、ステージの上と下とで盛り上げられたら幸いである。

福永陽一郎

### メッセージ

ピアニスト・久邇之宣

昔からアメリカの黒人音楽は大好きであった。私は5歳からピアノを習ったが、そのリズム感の悪さは、敬師、近藤孝子先生を嘆かせたものであった。曲の中に三連符がでてきただけでも憂うつな気分になったものだ。そのようなリズム音痴の私にとって、魂の叫びとも言えるメロディーとともに強烈なリズムを持った黒人音楽は憧れと羨望の的であった。本当に彼ら黒人は音楽にしてもスポーツにしても、その流れる動きの中に何と美しいリズムを秘めているのだろう。今度の四連での曲目は、美しいリズムをもった黒人音楽である。私は仕事としてやっている以上、同志社グリーの前では大きな声ではいえぬが、小さな声で書くと、私には大きな恐怖である。一拍ずれはしまいか、いやひどい時には、ピアノが一小節早く終わってしまいか、と内心恐々として夜も眠れない。でも抜群のリズム感をもっている同志社グリーの事である。以前東芝のレコーディング（新美徳英氏のことばあそびうたⅡでした。）の時のように、私を補い、助けてくれるであろう。と、心の中では恥じつつも、頼りにしてます。同志社グリークラブの皆様！

### プロフィール

国立音楽大学ピアノ科卒業。
クロイツァー豊子、近藤孝子氏に師事。小林道夫氏に伴奏法を師事。二期会、東京室内歌劇団、NHK他各方面で伴奏者として活躍。

# DOSHISHA GLEE CLUB

**An Afro-American Song Album**　17世紀以来、労働力としてアメリカに輸入されたアフリカ黒人は、何よりも音楽文化的な意味で、重大な影響をもたらした。つまり黒人種の民族的音楽性としての、独特のすぐれたリズム感が“ジャズ”という種類の新しい音楽を生み出したのであるが、“ジャズ”を除外してアメリカの音楽というものを考えるとき、それは極端に貧困なものになってしまうことからも、アメリカの音楽を語るときに、黒人の影響を無視することが不可能であることが理解できるはずである。

ジャズ以外にも、この記事の当面関係している分野で言えば、“黒人霊歌”と呼ばれるアメリカ民謡のジャンルがあり、しばしば合唱音楽として重要な役割を果してきた。勿論、それが持つ歌謡性から、独唱曲として演奏することが不可能であるわけではないが、もともと、そうした歌が発生したとき、アメリカの黒人たちは集団で生活をしているのが通常であったから、合唱という形式のほうがよりふさわしいのである。また、白人社会の中でのアメリカ民謡というものの大半が、ヨーロッパから人間と共に移住・移入されたものであり、イギリス、フランスに限らず、ときにはウクライナに源流のある旋律の“替え歌”さえある。つまり、移民として“新大陸”に渡ってきた民族が、それぞれ自国の歌というものを持ち込んで、世代を重ねるうちにアメリカの風土と同調して“アメリカ民謡”になってしまったのである。

成立したいきさつから言って、“ジャズ”にしても“黒人霊歌”にしても、黒人の場合は、黒人が民族として元から持っていた旋律や歌詞ではないわけで、その意味でも、アメリカの黒人、アフリカ系のアメリカ人の音楽は、アメリカ個有のものであって、他の種の民謡風歌曲のように、源流を“故地”に求めるわけにゆかない。

ところで、黒人の歌というと“黒人霊歌”と直結して考えるのが普通である。それが当然であるほど“歌”としての黒人音楽は、いわゆる“霊歌”が圧倒的に多い。それは、黒人の精神生活を慰撫するためにも利用された。“キリスト教”との関連で生れた歌であるが、それとは全く別に、精神生活以外の実生活と結びついた歌も、当然、数多く生れたわけで、それらは、肉体労働のための“仕事歌”、農作業のための“植付け歌”と“刈り取り歌”、子育ての“子守歌”、葬式の“泣き歌”などに分類できる。日本の“よいとまけ ― 線路工夫―の歌”のように、悲痛な哀愁を帯びた旋律であるが、筋肉労働をうながすエネルギーに満ちており、リズム的には、当然、ブルースとのちのスウィングの原型をはっきり認めることができる。

★ **Chain-Gang Song**　鉄道線路工夫として使われた黒人たちは、逃亡をおそれて、何人かずつ鉄の鎖でつながれていた。そういう男――白人の犯罪者を含む――たちをChain-Gangと呼んだ。ここでのGangは、しかし、後のシカゴ市などに現われた強盗ギャングを意味するものではなく、単に“強い男”くらいの意味である。

そのChain-Gangのうたった歌から「仕事歌」「うらみ歌」「望郷歌」の三種をえらんで合唱用のメドレーとしてまとめたMary Howeの作品。今回使用の編曲に女声パートを加えることもでき、又、無伴奏混声合唱用の編曲もある。

★ **Railroad Chant**　鉄道線路工夫の歌三種をTom Scottがメドレーでまとめたもの。"I've been working on the railroad"としてよく知られた旋律の断片や、別に黒人霊歌として使われた旋律、さらに、変型しているのがChain-Gang Songと同一の歌と認められるものもある。

★ **Lef' Away**　黒人社会の葬式の際にうたわれた「泣き歌」の形式でアメリカの民謡研究家のDavid W.Guionが作詩作曲した歌曲の合唱用編曲版。絶望的な哀愁が心を打つ、単純だが深い味のある歌曲となっている。

★ **De Glory Road**　黒人作曲家のJacques Wolfeが作った、黒人の心情をうたったかなり長い歌曲の、作曲者自身による男声合唱用編曲。自分の体験を語って“栄光の道”（キリスト教の）に誘う、伝道歌の内容を持つが、いわゆる黒人霊歌のように、群衆社会の中から自然成立した歌とは違って、その力強さは、つくられた芸術的作業の結果である。

アフリカ系アメリカ人の歌、あるいはその様式を真似た歌という意味でAn Afro-American Song Albumというトータル・タイトルをつけた。日本では何十年も前から知られていたが、最近はとんど忘れ去られていた歌たちである。

●「鎖につながれた囚人の歌」

このトンネルには、おれのより威勢のいいハンマーはない
おいらが一番がんばってやっているんだ
作業場では監督がこの鋼をじっと見張っている
　お偉いさんよ、おいらが何したっていうんだ？人殺し？それとも列車強盗？とんでもねえ、首つりならはかを当ってくれ
　ああ、おいら何も悪いことはしてねえよ　けどあいつら鎖でしばり倒したんだ　もう一度云うよ、おいら人殺しも列車強盗もしてねえ、首つりなんてまっぴらだ！
おお、見おろせば遠くにさびしい路がつづいている
家の玄関でおいらの子供達が手を振っている
ああ　家に帰りたい　だけどそれはできないんだ…
　おふくろは手紙を書いてくれるだろうか？
　おいらもうお天道様を二度とおがめそうもねえ
　家に帰りたい　だけと、だめなんだ…
ああ、主よ、おいらを楽にして下さい、おねがいします、主よ…

●「鉄道工夫の歌」

掘ってはすくい、掘ってはすくい…
　ずいぶん長いこと線路で仕事をしてきたもんだ
　おれたちずっとこうして働いてんだ
おいらは南部鉄道、ニューオリンズからチャタヌーガまで線路をしいてきた　さあ大きな声を出してがんばろう、
はりきって線路をしくんだ！
　おい、用意はいいか？おいらはO.Kだ
　鍛は曲がってても線路は曲げるな！
　いつかきっと、おれたちにも真珠の門が見えてくるさ
おい、それを持ち上げてちゃんとしくんだ
調子はいいか？道具を使ってうまいことやってくれ
一日中線路で働いてばかりだ
　90ポンドの鋼鉄は、かたいオークの枕の上
　それを9インチの大くぎで、しっかり打ちこむんだ
　だからハンマーを思いきり振り上げて、一回一回ひびかせろ
それが鐘の音にきこえるまで気合いを入れて打ちこめ！
9ポンドのハンマー、よいしょあ！なんのこれしき、どっこいしょお！
それにしてもおれにゃ重すぎる
その笛をならしてくれ、よいしょあ！手当てをくれよ、どっこいしょお！
おいら精一杯やってくたくたなんだ、神様！
　掘ってはすくい、掘ってはすくい…
　ずいぶん長いこと線路で仕事をしてきたもんだ

●「哀歌」

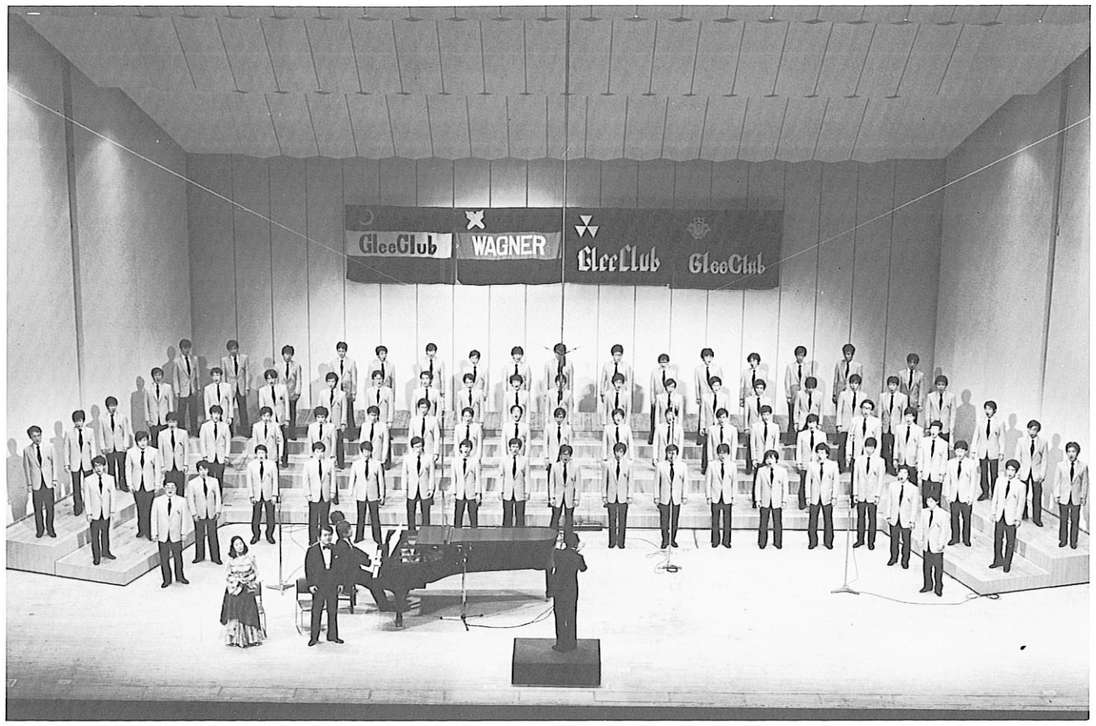
心臓がまっ二つに割れちまった
恋人はかえってこない、
もう夜が明ける　心臓がまっ二つに割れちまった
　夜明けに涙を流すのはよくないことさ　一人ぼっちで
　うめいているなんて　夜明けに涙を流すのはよくないことさ
ああ、もう何ものどを通らない、眠れない 最愛の恋人を失ったことを思うと 何ものどを通らない、眠れない
　横になってそのまま死んでしまいたい 恋人はもうかえってこない、そして夜が明ける 横になってそのまま死んでしまいたい　恋人はかえってこない、もう夜が明ける

●「天国への道」

さあ来い、兄弟たちよ、荷物をすてて 天国へ上ってくるのだ
「天国への道」をつかって そう、「天国への道」だ
荷物をすてて「天国への道」を上ってくるんだ！
　一時になるまで眠っていた
　すると主が信徒をしたがえて私を呼びにきたのだ
　主は呼ばれた、「ホゥーイ」
　「今の声は主イエスよ、あなたですか？」私はおどろいて言った
　主は再び呼ばれた、「ホゥーイ」
　私はベッドからとび起きて、叫んだ「私はここです！」
さあ兄弟よ、早くおいで、おまえを三度も呼んではいない
楽園まで馬にのって私の後についてくるのだ
「天国への道」を、そう「天国への道」を！
そして私は荷をくくりつけ、馬にまたがった
　その馬は全身千マイル以上もあった
　その尾はむちのように怒り狂い、ひづめは荒々しく大地をけるる
　たてがみはゆらめき、まなこは月のようである
　そのロは「ハレルヤ」のふしを歌いつづけている！
主は言われた、「兄弟よ、まわりを見回してみよ 」
その時私たちはもり上がる大地の上を飛んでいた
りゅうとした丘や山々をも越えて
地面や人々はしだいに視界からきえていった
　まわりで精霊の歌声がきこえる
　そして主の歌声しかきこえなくなった
主が言われた、「兄弟よ、もう一度あたりを見回してみよ 」
悪魔が原罪という動物にまたがってやってきた
そして棒とむちでしきりに打っていた
悪魔が「天国への道」で私たちをつかまえようとしている！
　「主よ、悪魔が地獄から駆けてきています！
　その叫び声とイオウのにおいでわかるのです！」
　しかし主は言われた、「兄弟よ、逃げきるのだ！」
　主はさらに急ぎ、馬のくつわを ゆるめた
すると悪魔が近づいてこう叫んだ
「黒ん坊を一匹つかまえて、地獄で火あぶりにしてくれよう！」
私は叫んだ、「主よ助けて下さい 」「ああ、わかっている！」
ついに目の前に 天国が現れ、私たちは扉をしめた！
　おお、天使の歌声が！ここは天国なのだ！
　何とうれしいことか、ここは天国なのだ！
　モーゼとアーロンとメトセラが 大声で叫び、太鼓をたたいている
わたりがらすが食べ物をくれた、エリアが折ってくれた
他の救われた者たちも、オルガンのなっている間集まってくれた
彼らは叫んだ「さあ罪人よ、荷物をすてて 上ってくるのだ、
「天国への道」を通って！」
　さあ兄弟よ、何もかも捨てて 上がって来なさい、
　「天国への道」を通って！

訳 N.K.

# 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団




関西の皆様、２年間の御無沙汰でした。我々は、新鮮な気概と喜びをもって大阪にやって参りました。関西は東京に比べ一段と合唱活動の盛んなところと聞いております。“通”でいらっしゃる皆様を前に、フェスティバルホールの大舞台で歌うことができますことを大変光栄に思います。そして大いに緊張を感じます。

さて、ワグネル・ソサィエティーは、1901（明治34）年の春に創立された、オーケストラと合唱団とを併せもつ我が国最古の演奏団体です。翌年開かれた第１回演奏会は、管弦楽や合唱のほか、ヴァイオリン独奏やピアノ連弾、さらに独吟に至るまで和洋とりまぜた多彩なプログラムで、当時としては、まさにエポックメイキングなことであったと想像されます。以来、ワグネルはアマチュア音楽界にあって常に先駆的であり続け、今日の隆盛をみるに至りました。

現在は、オーケストラ・女声合唱団・男声合唱団の３団体に分かれて、それぞれ独自の活動を行っております。

我々男声合唱団は、定期演奏会、東京六大学合唱連盟定期演奏会、そしてこの東西四大学合唱演奏会を中心として、早慶交歓演奏会、春夏の演奏旅行、レコーディング、テレビ出演等、幅広く意欲的なスケジュールを組んでおります。

しかしながら、アマチュアである我々にとっては、練習こそが活動の本質であると考えます。常に真摯に音楽と取り組み、より高くより深い音楽を追求する姿勢は決して崩してはなりません。合唱は自発性と信頼の輪です。それぞれがのびのびと歌いながら、しかも、他への思いやりを忘れない。そこに合唱の素晴らしさがあり、だからこそ、そのために日々のひたむきな修練が必要なのです。

今日お聴きいただく演奏はその成果です。演奏会は一つの成果であって、決してそれ自体目的ではありません。我々にとって価値を置くべきものは「道程」であり、そして「心」です。

演奏の出来不出来を超えたところで、音楽に志す者全てに通じる「心」。その「音楽する心」を分かち合うことこそが、我々の最大の喜びなのです。

こうした音楽の厳しさと喜びとを知ることができたのは、また、畑中良輔、三浦洋一、大久保昭男先生をはじめ、諸先生方の情熱のこもった御指導の賜物に他なりません。先生方のもとで歌うことのできる幸せを、我々は一層努力と研鑽を重ねることで体現したいと存じます。

今日演奏致しますブラームスの「Nänie」、繊細で美しく、しかも奥深いこの曲を我々は精一杯「心」を込めて歌います。この広いホールがワグネルトーンで満ちると同時に、会場全体が一つの「心」を結ぶことができたら、どんなに素晴らしいでしょう。

最後になりましたが、今後とも、皆様の多大なる御批判とそして御支援を賜りますようお願い申し上げます。





# KEIO GIJUKU WAGNER SOCIETY MALE CHOIR

## 慶應義塾塾歌

作詞　富田正文
作曲　信時　潔

1 見よ風に鳴るわが旗を
新潮寄するあかつきの
嵐の中にはためきて
文化の護りたからかに
貫き樹てし誇りあり
樹てんかな　この旗を
強く雄々しく樹てんかな
あゝわが義塾
慶應　慶應　慶應

2 往け涯なきこの道を
究めていよゝ遠くとも
わが年に執れる炬火は
叡知の光あきらかに
ゆくて正しく照らすなり
往かんかな　この道を
遠く遥けく往かんかな
あゝわが義塾
慶應　慶應　慶應

**顧問**/村田武雄・千種義人・神谷傳造・山田太門　**部長**/福岡正夫　**専任指揮者**/畑中良輔　**ヴォイストレーナー**/大久保昭男

### TOP TENOR

板垣　武志（商４）函館ラ・サール
角本　雅宣（経４）姫路西
桑田　　浩（政４）県立西宮
斎藤　寛行（政４）佼成学園
榊原　浩康（経４）東葛飾
新川　新一（法４）函館ラ・サール
堤　　敦史（経４）伊　勢
吉田　孝弘（政４）古河第三
渡辺　英一（法４）安　積
赤沼　和也（経３）立　川
上田　雅彦（経３）海　城
大友　俊明（理３）前　橋
香川　孝之（商３）修　道
三好　英彦（文３）高　松
渡辺　　孝（経３）松　山
渡辺　直樹（法３）函館ラ・サール
木倉　宏成（理２）小山台
佐々木正史（経２）慶　應
藤田　東一（理２）　津
前田　純男（経２）慶　應
前野　達志（商２）春日部

### SECOND TENOR

古満　　繁（政４）松江北
清水　貞敏（商４）東　山
辻本　宏之（商４）甲陽学院
中田　一夫（商４）駒馬東邦
藤本　　淳（文４）名張桔梗丘
山香　　朗（経４）青山学院
青山　秀美（商３）北　野
窪田　嘉文（文３）松山東
清水　賢一（政３）甲府第一
武　　昌利（理３）鎌　倉
手嶋　公之（政３）光　陵
西原　史浩（経３）桐　朋
浜田　吉司（経３）慶　應
宮本　俊孝（商３）戸　山
井上　正康（政２）静　岡
兎束　哲夫（理２）甲府南
小林英一郎（政２）豊橋南
田中　雅明（政２）光　陵
廣岡　龍哉（経２）青　山

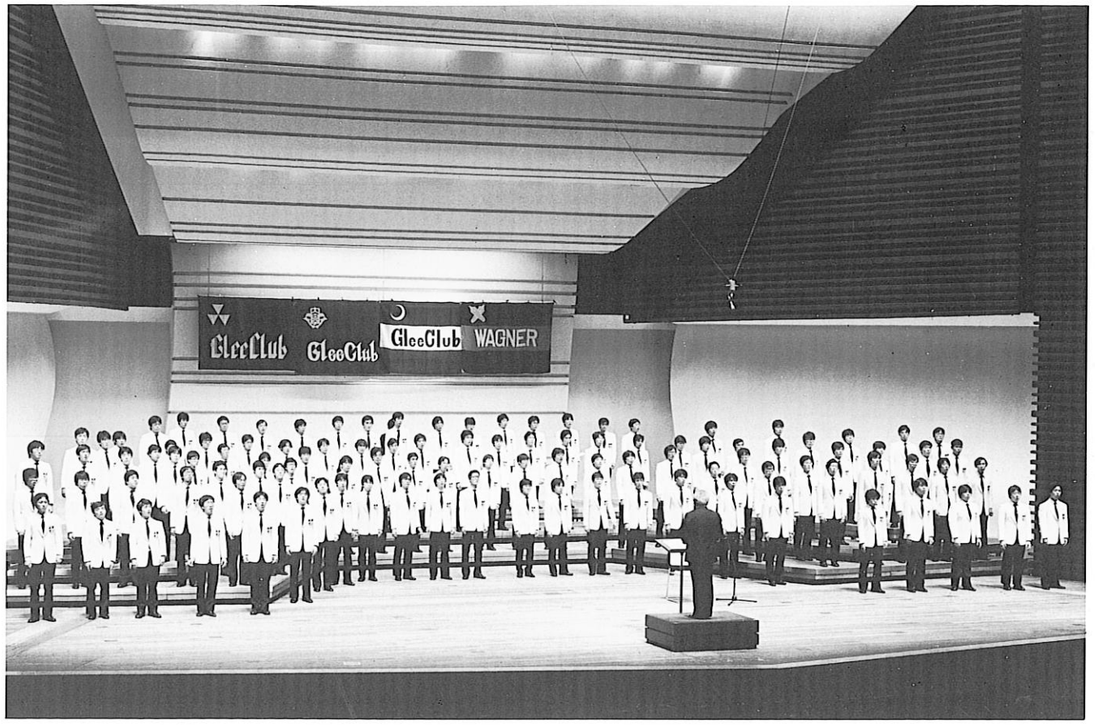
### BARITONE

北島　洋樹（文４）柏　陽
日下部　寛（商４）姫路西
小林　俊宏（経４）桐蔭学園
佐藤　雅通（商４）希望ヶ丘
館山　友宏（経４）函館中部
東　　克己（理４）岡山操山
平尾　　啓（理４）北　野
星　　博美（法４）磐　城
松下　裕一（理４）岐　阜
加藤　　明（理３）　南
飛川　敏哉（文３）　芝
中野　伸朗（法３）慶　應
沼岡　千里（理３）新　城
松本　恭幸（経３）浦　和
三木　　淳（理３）長　田
九十歩　敏（理２）海　田
鈴木　宏法（法２）洲　本
永井　聖士（文２）昭　和
堀内　康雄（政２）国学院久我山

### BASS

池口　　司（法４）大　門
神長　俊也（経４）慶　應
菊池　　泰（理４）湘　南
島田　　啓（経４）川　越
下郡　　実（経４）大教大附平野
古田　泰資（経４）浦　和
保坂　文一（商４）慶　應
池見　克郎（経３）大分上野丘
猪股　克彦（商３）仙台第一
大隅　　仁（法３）開　成
薗田　浩徳（文３）鹿児島ラ・サール
竹村　夏彦（文３）東葛飾
玉井　哲郎（理３）松本深志
西川　昌宏（法３）彦根東
内田　光哉（理２）六　甲
岡本　直樹（経２）宇都宮
高原　章仁（理２）八王子東
馬場　昌司（商２）函館ラ・サール
牧田　隆行（商２）神　戸

# 関西学院グリークラブ




関西学院グリークラブは、創部が1899年、という日本で最も長い歴史を持っている男声合唱団です。その発生地は現在の西宮とは異なり、神戸の原田の森であり、それ以来、今年で85年目を迎えているのです。ひと口に85年と申しましても、考えうるに明治、大正、昭和と続いているわけですから、その歴史的な重さに、私共はただ、驚嘆するばかりなのです。私共が現在まで受け継いで来ました事は、歴史的な重さばかりではありません。例を上げるとするならば、関西学院グリークラブの持つ独特のあのトーン。一般的に関学トーンとして親しまれていますが、あのトーンも毎年、団員の1/4が入れ替わる、最も団員の中でグリーに親しんだ者達が去り、何も知らない、男声合唱という言葉も知らない者達が入部して来る、という合唱団としては極めて不合理な循環をくり返しているにもかかわらず、あの関学トーンは、ごく当然の事でもあるかのように保たれているのです。さらに、私共のクラブのモットーでもあります、・Mental Harmony・練習のための練習などは、長い歴史を経て来た現在でも私共の心に完全に、と申し上げても良い程に、根づいているのです。そして、その言葉の通りに私共は、日々の練習に励み、より高い所をめざしているのです。

1952年、早慶同関の東西の四大学が集まって、第１回の東西四大学合唱演奏会を開催して以来、今年で33回。東西四連は、常に大学合唱界最高峰の演奏会として自他共に認められて来ました。この33年間、私共は常に他の三大学に負けまいと、努力を重ねてきました。しかし、それだけに決して甘んじることなく私共は、日々の練習に励んでいるのです。すなわち、私共は、東西四連やグリークラブリサイタルのためにのみ練習するのではなく、明日の、そして、また次の日の練習のために練習を行い、その活動の全てを通じて、誠のＭｅｎｔａｌ Ｈａｒｍｏｎｙを創造し、完成させてゆこうと努力して来たのです。そしてそれが完成した時こそ私共は勝利を納める事ができるのです。

1984年７月下旬から８月下旬にかけて、私共グリーメンはヨーロッパ演奏旅行に飛び立って行きます。この演奏旅行の主な目的は、イギリスのアバディーンで開催されます「アバディーン・インターナショナル・ユース・フェスティバル」に参加するためなのですが、この他にも西ドイツ、フランスを訪れる予定です。この海外演奏旅行は私共にとって、日々の練習の努力によるひとつの集大成と考え、団員一同、今から非常に燃えている次第です。

さて、本日演奏致します「鐘の音を聴け」―男声合唱のための幻想曲―は男声六部合唱という、余り経験したことのない曲であり、団員一同非常に不安でありましたが、ようやく完成に近ずいて来ました。従って、後は団員一同のMental Harmonyが問題なのです。私共は、きっと素晴らしい演奏になると信じています。否、絶対に素晴らしい演奏をしますので、本日お来しの皆様方、楽しみにお待ち下さい。

今後共、林雄一郎、畑中良輔、北村協一、大久保昭男諸先生方の御指導の下、新たな伝統を築き上げてゆく覚悟でございますので、私共関西学院グリークラブに今後とも変らぬ御声援を宜しくお願い申し上げます。





# KWANSEI GAKUIN GLEE CLUB

College Song

## A SONG FOR KWANSEI

作詞　E.Blunden
作曲　山田耕筰
編曲　林雄一郎

1. That we may both receive and give,
May live to learn, and learn to live,
Kwansei, we throng;
To you we throng, not first nor last,
Rejoicing in your fruitful past,
Through seasons clear or overcast
Still true and strong.

2. For us the present time is grace,
With thankiful hearts we take our place,
Kwansei, our own;
And, each and all, will count these hours
Beneath your trees, beneath your towers,
One long succession of kind hours,
The sweetest known.

顧問/今田　寛　技術顧問/林雄一郎　常任指揮者/北村協一　ヴォイストレーナー/大久保昭男

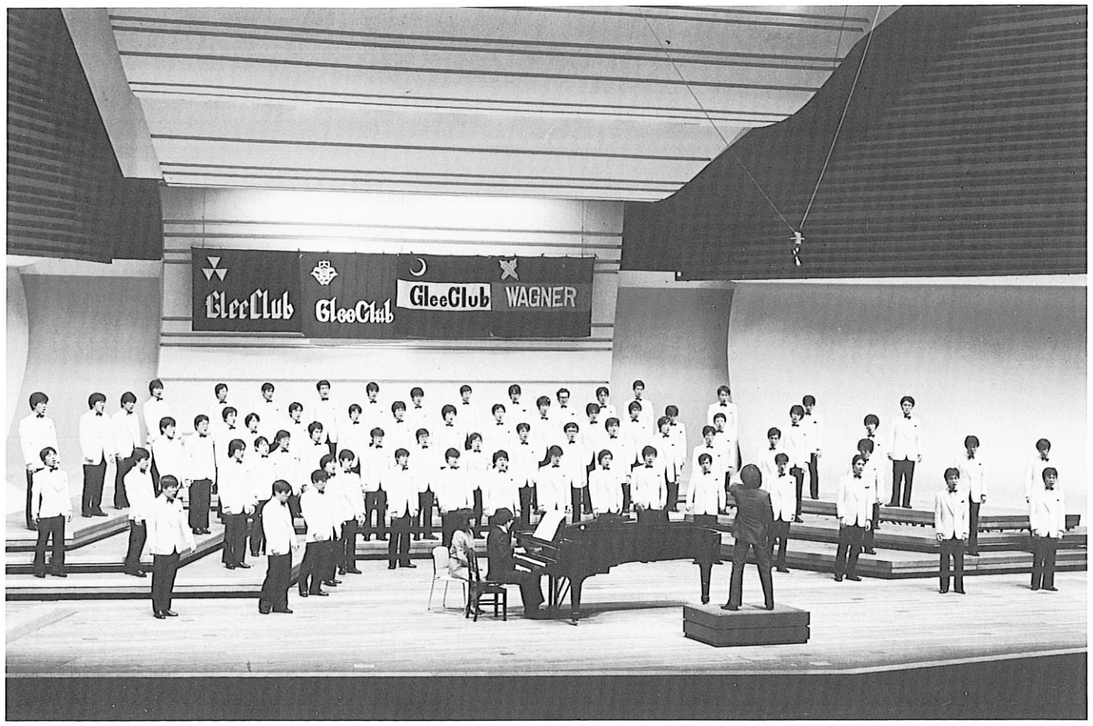
**TOP TENOR**
瀬戸　裕之(法４)　旭
隅谷　義孝(文４)明石南
米村　義則(法４)金沢錦丘
榎本　　大(理４)関西学院
本江　健司(商４)砺　波
辻　　正喜(法３)関西学院
安井　照幸(商３)　旭
重松　　浩(法３)天王寺
苅谷　　誠(法３)　滝
梅澤　寛明(文３)大手前
森永　和人(社３)新　田
谷垣　正人(法３)八　鹿
太田　　務(理２)崇　徳
西中　聡一(社２)東　海
河田　一匡(経２)茨　田
三木　周三(法２)琴　丘
京元　弘典(文２)徳島市立
田中　昭広(文２)茨木東
清水　健司(経２)高　島
斎藤　芳夫(法２)大　門
小立　浩司(法２)豊　島
高渕　　実(法２)岡山操山

**SECOND TENOR**
平松　大輔(法４)関西学院
西谷　秀樹(文４)八　鹿
三戸　勝政(法４)山口県桜ヶ丘
野口　雅章(商４)大手前
藤岡　義章(商４)北　陽
田中　福祉(法４)岡山芳泉
相馬　也卓(法４)住　吉
高嶋　甲希(法４)関西学院
掛川　直樹(法３)柳　井
平井　栄一(経３)真　知
長手　郁夫(社３)関西学院
須々木　清(商３)岡山朝日
杉本　憲一(経３)関西学院
門澤　直樹(商３)関西学院
川畑　隆一(商３)神　戸
青山　祐一(経３)岡山芳泉
山口　　功(法２)堺　東
畑　　元浩(文２)三　国
篠原　敏史(社２)大　谷
神辺　英明(法２)児　島
杉上　正樹(法２)関西学院
村井　真澄(経２)豊　中
丸尾　哲也(社２)三　島
黒瀬　達二(経２)滝　川
正木　一郎(商２)出　石
郷田　啓介(法２)西宮今津
木村　慎茂(文２)住　吉

**BARITONE**
飯田　栄一(経４)関西学院
福明　正樹(社４)岡山大安寺
榎並　良樹(社４)河　南
恵谷　篤嗣(商４)関西学院
八木　　徹(法４)関西学院
戸田　義信(商４)鈴蘭台
青木　克爾(社４)上　宮
神徳　和男(経４)尼崎西
伊藤　正博(法４)勝　山
南　　喜雄(経３)葺　合
高田　二郎(社３)葺　合
竹田日出紀(社３)高　石
筒井　立明(社３)都立小山台
坂口　典之(経３)池　田
佐藤　元昭(経３)鳴　尾
浦瀬　雅文(文３)洲　本
田井中豊喜(経３)洛　南
田村　　剛(法２)赤塚山
宗　　達也(経２)豊　中
中野　敬司(法２)関西大倉
久野　進一(商２)三　島
森本弥寿宏(法２)豊　中
田中　宏治(商２)乙　訓
浜端　基晃(文２)桐　蔭
牛尾　竜二(文２)浜　田
西山　直樹(経２)東　灘
内藤　　純(法２)明　石
藤原　康雄(経２)倉敷古城池
武田　圭司(商２)関西学院
荒木　安直(経２)奈　良

**BASS**
津田　良司(法４)関西学院
諌山　敏明(法４)邢　賀
松本　和巳(商４)広島舟入
鬼頭　　悟(経４)明　和
吉田　　徹(経４)牧　野
福島　広之(法４)関西学院
門脇　哲郎(商４)関西学院
福本　裕行(経４)関西学院
多　　一郎(法４)武庫荘
岩田　　潤(社３)乙　訓
垣口　芳朗(経３)関西学院
倉田　秀夫(経３)関西学院
原田　昌宜(経３)洲　本
岡田　宜之(社３)津　西
米澤　大亮(法３)関西学院
新井　　裕(経２)綾　部
井上　理貴(法２)東寝屋川
冨永龍太郎(商２)尾道北
加藤　寛樹(法２)鈴蘭台
中西　俊憲(経２)乙　訓
吉田　正史(商２)東舞鶴
中島　博史(社２)関
島田　峰史(理２)関西学院
西村　伸也(理２)豊岡

# 早稲田大学グリークラブ




東京は国電山手線、高田馬場駅を降りて歩く事約15分。途中、人待ち顔で立ち並ぶ夥しい数の古本屋、喫茶店、はたまた雀荘に迷い込まなければ、街並みの中に忽然と現われる早稲田大学に辿り着く事が出来ます。四万余名の早大生がそれぞれに青春の時を賭ける中、私達はグリークラブに、そして、今日、この歌に若い情熱をぶつけています。

星の数程もある早稲田のサークルの中から、このグリークラブを選び、必然的にか何かの間違いか、集まった者現在100余名。全国各地から様々な個性、価値感、勉学意欲を持ち寄って、あいつにぶつかり、あの子にぶつかり、右往左往している。正に早稲田の$\frac{1}{400}$と言えるエントロピーの極めて高い私達を、ひとつに方向付け、練習へと通わしめているのはただ「皆でいい歌が歌いたい、聴く人も自分達も胸が熱くなるような。」という思いです。何だか頼りない話ですが、それがどんなに強い結合力を有しているか、今日の演奏を通して皆様にも感じて頂ければ幸いです。

この早稲田大学グリークラブが、文字通りの“早稲田の杜”に最初の和音を響かせてから約80年の歴史を重ねてまいりました。人生の末だ駆出しともいえる私達には、その意義を充分に計り難いわけですが、私達が今日の様な充実した活動を送る事が出来ますのも、福永陽一郎先生、小林研一郎先生、ヴォイストレーナーの山本健二先生を始めとする諸先生方の良き御指導、累積すれば気の遠くなる様な時間数の練習の成果として、今日の伝統を築き上げてこられた諸先輩方御努力、さらには、その長きに渡って、暖かく御支援、御鞭撻頂きました皆様方の御陰である事に想い至りますと、深い感謝の念と共に新たな前進への力が湧いてくるのを感じます。

さて、昨年12月の定期演奏会終了の瞬間からスタートした早大グリーの本年度の活動も、送別、東京六大学、早慶交歓の各演奏会、２つのオーケストラとの共演を含む大小様々なステージを経て、最も充実してきたこの時期に、前期最大の晴れ舞台ともいえる東西四連を迎える事となりました。それも２年振り、厳しいかも知れないけれど本当に“歌”のわかって下さる方の多いこの大阪でという事で、自然と毎日の練習に熱がはいったものでした。今年は指揮者に、一昨年、やはりこの四連で合同演奏を振って頂き、部員一同感銘深かった山田一雄先生を初めてお招きし、曲の方も持ち前の進取の精神を発揮してか、高嶋みどり先生に委嘱をお願いした「青いメッセージ」を持ってやってまいりました。一昨年の“ジプシー”とは、また一味違った姿をお見せする事が出来るかと思います。最高のホール、最高のお客様、そして最高の演奏素材。これで最高の演奏が出来なければ申し訳が立たないと、皆燃えに燃えております。

どうか私達のこの熱いメッセージが、歌声に乗って、皆様の心まで届きますように。





# WASEDA UNIVERSITY GLEE CLUB

## 早稲田大学校歌「都の西北」

作詞　相馬御風
作曲　東儀鉄笛
編曲　山田耕筰

1 都の西北　早稲田の杜に
　聳ゆる甍は　われらが母校
われらが日ごろの　抱負を知るや
　進取の精神　学の独立
現世を忘れぬ　久遠の理想
　かがやくわれらが　行手を見よや
わせだ　わせだ　わせだ　わせだ
　わせだ　わせだ　わせだ

3 あれ見よあしこの　常盤の杜は
　心のふるさと　われらが母校
集り散じて　人は変れど
　仰ぐは同じき　理想の光
いざ声そろえて　空もとどろに
　われらが母校の　名をばたたえん
わせだ　わせだ　わせだ　わせだ
　わせだ　わせだ　わせだ

会長/上田 稔　顧問/磯部 俶　指揮者/山田一雄・福永陽一郎　ヴォイストレーナー/山本健二

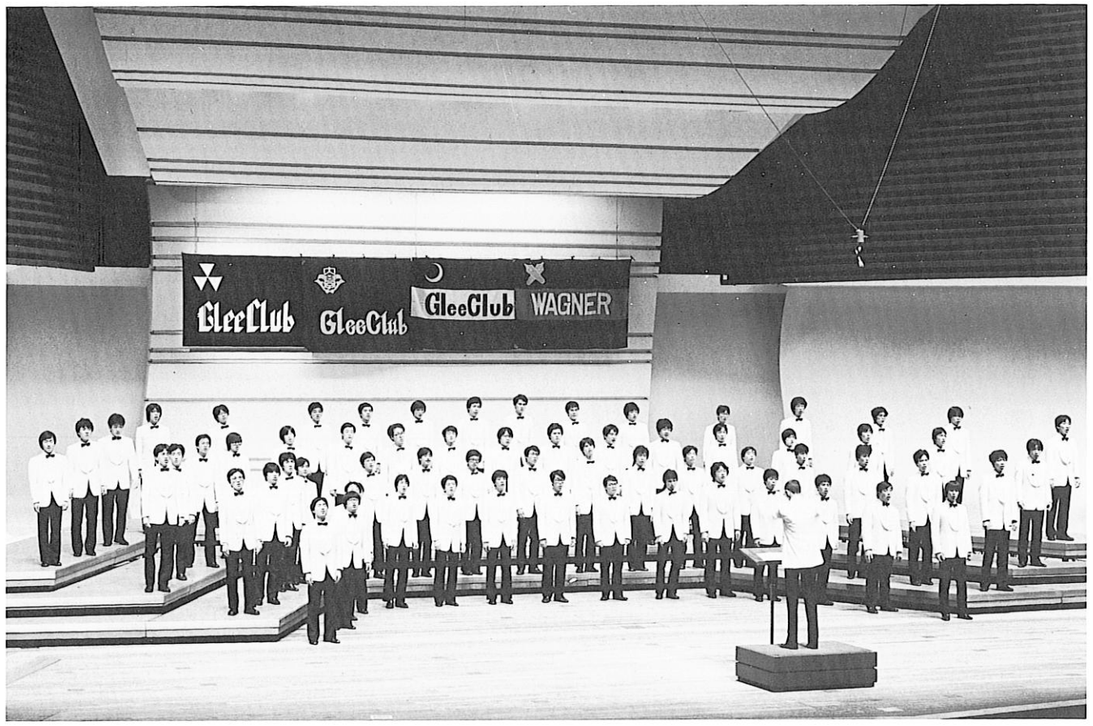
**TOP TENOR**
岡部　高広(社４)早稲田
佐藤　正基(社４)鶴岡南
辻村　　哲(商４)早稲田
松永　伸介(文４)浅　野
藪下　真平(社４)東　稜
山本　洋祐(商４)徳　山
石川　　了(文３)秋　田
木村　治郎(教３)浦　和
坂本　桂一(文３)高　松
佐藤　圭彦(政３)都立大附
野武　昭彦(法３)早稲田
内山　光男(法２)浦　和
大田　浩治(政２)下関西
駒崎　　宏(政２)浦　和
白石　秀史(文２)郡　上
嶺重　　淑(文２)関　学
山田　　敦(教２)川　越

**SECOND TENOR**
大鹿　達人(文４)希望ヶ丘
片桐　直彦(商４)小山台
高瀬　正考(法４)淳心学院
武田　知見(法４)丸　亀
利光　敬司(商４)大分上野丘
南條　雅朋(文４)旭川東
松永　裕介(理４)浅　野
飯泉　　悟(政３)東大附属
川内　十郎(教３)榛　原
杉谷　賢昭(政３)砺　波
田中　規之(法３)立　川
東原　浩二(文３)福　島
能勢　大伸(政３)宝　塚
五十嵐　肇(政２)　西
石井　博史(教２)厚木北
石坂　孝之(社２)久留米
伊藤　直久(教２)川　越
内山　成人(法２)姫路西
大平　英史(商２)那　賀
大類　　司(教２)栃　木
新原　正夫(文２)都城泉ヶ丘
田中　俊一(商２)千葉東
村松　裕哉(社２)藤沢西

**BARITONE**
青池　昌博(文４)三　鷹
川和田宏憲(文４)仙　台
近藤　剛広(理４)栃　木
菅野　達也(商４)八千代
渡辺　明良(社４)釧路湖陵
新井　康之(教３)不動岡
蒲田　高士(法３)千葉東
祖父江嘉高(政３)神　戸
原田　達哉(政３)山　口
水野　　宏(政３)早大学院
南小柿　謙(政３)早大学院
古賀　悟郎(法２)成　蹊
越沼　　毅(社２)佐　野
佐藤　和哉(法２)山形東
杉山　浩一(商２)希望ヶ丘
関　　達朗(文２)三　田
徳本　永幸(社２)倉吉東
中野孝太郎(教２)熊　谷
西山　治宏(商２)早稲田
備前　健吾(文２)酒田東

**BASS**
具志堅　泉(社４)光　陵
小林　幹郎(社４)市　川
鈴木　秀樹(教４)神　代
為本　吉彦(理４)津　山
樽屋　尚之(法４)船　橋
新関　雅俊(理４)成　蹊
野山　　広(文４)長崎南
青木　　進(文３)岐　山
青木　伸行(社３)静岡西
尾崎　宏彦(政３)千　葉
高本　祐介(商３)松山北
早野　元弘(政３)小田原
佐渡谷威和(社２)七里ヶ浜
新郷　一之(商２)成　蹊
新屋敷　昇(商２)墨田川
鈴木　　徹(文２)熊　谷
綱本　　晃(理２)立　川
野見山浩一(商２)七里ヶ浜
細野　孝規(教２)川　越
渡辺　　浩(社２)城　北
渡部　公之(教２)川　越

# 同志社グリークラブ




私達同志社グリークラブは、前名誉顧問の片桐先生と音楽好きな数人の学生によって、今から80年前にその産声をあげました。この80年の間には、クラブにとって多くの困難や葛藤がありましたが、私達は、常に、伝統ある男声合唱団の１つとしての誇りと、「新しい音楽」へのたゆまぬ情熱を持ちつづけてまいりました。そして、その困難を１つ１つ乗り越えてきたのです。戦後は、毎年、東西四大学合唱演奏会、演奏旅行、関西六大学合唱演奏会、定期演奏会を中心に、春、夏の合宿、レコーディング、結婚式やテレビ出演といったお座敷など、多くのコンサートを行なっています。特に去年は、クラブ創設以来の念願であったヨーロッパ演奏旅行が実現し、'74年のアメリカ、'79年の中国演奏旅行につづいて、クラブにとって、とても有意義な経験でした。特に、現地の人々との歌を通じての心暖まる交流は、一生部員の心に残ることでしょう。

さて、今年度は、クラブ創設80周年記念行事の一環として、11月４日(日)に、京都でOB会との合同コンサート、また、12月17日(月)には、新宿文化センター大ホールにおきまして、東京演奏会が計画されております。また今年は、40名の新入生を迎えることができ、部員数も100名を越え、新たな一歩を踏み出すのにふさわしい年となりました。

というわけで、今宵のステージは、80周年の大きなステージの初めの一歩ということ、そして、久しぶりに久邇先生と共演できるということで、部員一同、すばらしい音楽を歌い上げたいと思っております。

同志社グリークラブは、これからも「熱い音楽」を目指して、不断の努力をしていく覚悟でございます。これからも１日１日の練習を大切にして、早稲田大学グリークラブ、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団そして、関西学院グリークラブとともに、東西四大学合唱団の一員としての誇りと責任を、いつまでも持ちつづけていきたいと思います。

最後になりましたが、今日まで、同志社グリークラブを御支援して下さいました各先生方、並びにそのほか各位の皆様に、心から感謝いたしますとともに、今後とも　一層の御指導、御鞭撻を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。





# DOSHISHA GLEE CLUB

## DOSHISHA COLLEGE SONG

Words by **W.M.Vovies**
Music by **Carl Wilhelm**

1 One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim:
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

4 Still broader than our land of birth,
We've learned the oneness of our Earth;
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind.
Dear Alma Mater, sons of thine
Would strive to live the life divine;
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha, and Brotherhood!

**顧問／遠藤　彰　技術顧問／福永陽一郎　指揮者／富岡　健　ヴォイストレーナー／大久保昭男**

**TOP TENOR**
梶原　昌彦（法４）済々黌
河村　一良（商４）福　岡
宮井　　健（工４）雲雀丘
森　　知史（工４）北　野
佐々木　渉（経４）高松西
山中　　光（商４）高　陽
小林　正明（法３）高　槻
小杉　泰幸（法３）室蘭栄
二宮　孝之（経３）星　陵
大畑　泰年（工３）旭
尾池　智治（法３）泉　陽
山田　成彦（経３）湘　南
前川　立弥（商２）関西大倉
松本　裕士（工２）同志社香里
三宅　厚志（法２）浦　和
冨倉　智彦（工２）同志社香里
山下　浩司（経２）関西大倉

**SECOND TENOR**
日比　敏也（経４）大　府
中小路智一（法４）大教大付天王寺
篠原芳兵衛（商４）大和川
辻　　透（商４）洛　北
福原　伸司（工３）井　口
木下　　勝（法３）星　稜
久保　行央（経３）同志社香里
中村　健史（法３）紫　野
斎藤　　斎（経３）同志社香里
竹本　滋知（法３）国　府
成田　宏司（工２）四日市
大野　浩一（工２）愛　光
杉田　政治（工２）同志社香里
高木　憲治（商２）東　山
高梨　　純（法２）東豊中

**BARITONE**
伊勢三十六（文４）篠山鳳鳴
大嶋　誠司（商４）小　倉
山内　　豊（商４）桜　塚
藤野　寿男（工３）山　口
灰塚　　弘（工３）同志社香里
神谷　仲行（文３）中　村
森永　浩樹（文３）綾　部
小木曽信之（工３）長　良
斉藤　高弘（文３）藤　島
藤　　浩和（経３）筑　紫
内田　智之（法３）鎌倉学園
橋　登祉彦（法２）輪　島
奥野　和敏（商２）上　宮
内山　　透（法２）三　島
梅村　雅彦（経２）門真西
山口　明彦（工２）高松西

**BASS**
片岡　和彦（経４）小　倉
久保田哲哉（工４）三　池
中西　　宏（文４）上　宮
中西　雅樹（経４）泉　北
中田　克之（法４）交　野
西尾　強志（文４）上　宮
白井　幸彦（法４）福　崎
高橋　圭二（法４）丸　亀
田中光太郎（経４）佐賀西
和田　秀樹（経４）益　田
遠藤雄一郎（工３）米子東
加藤　栄嗣（法３）米子東
小西　正俊（商３）同志社香里
松浦　悟史（文３）東大津
田中紳一郎（工３）住　吉
植田　禎一（法３）郡　山
北川　浩和（経２）長浜北
中村　　洋（文２）同志社
中村　茂晴（工２）山　崎
直木　幸生（工２）清　風
杉山　慎一（経２）同志社香里
戸田　秀樹（工２）同志社香里

ヴォイス・トレーナー **大久保昭男**

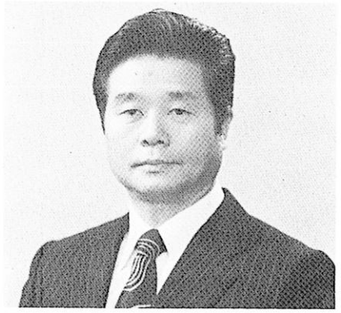
昭和28年、東京芸術大学声楽科を卒業。矢田部勁吉氏に師事された。近衛秀麿指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役でデビュー。山田耕筰指揮、オペラ「黒船」、ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」などにも出演された。昭和34年にはドイツ・リート、日本歌曲による第１回リサイタルを開かれた。

現在、昭和音楽短期大学教授、東京芸術大学講師。又、慶応ワグネル、上智、立教、関学、同志社の各グリークラブ、早稲田コール・フリューゲル、法政アカデミー等、大学のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で広く活躍されている。

## メッセージ

第33回東西四大学合唱演奏会おめでとうございます。このごろは、東京も雨が多く憂うつな日が多いようですが毎日の練習もややもするとこのようにつまらない練習になってしまいがちです。まして、それぞれ超ハードスケジュールをもつ東西四連の大学ならなおさらです。しかし本当の音楽を目指し、美しい音楽をつくろうとするとき、そしてそれを真剣に目指すなら、それは自然にその音楽に引きずり込まれていく筈です。そのような練習は、何にもかえがたい時間となるのです。

美しい音楽をつくることに、たゆまぬ情熱を注ぐ若者たちに、私が協力できることはこの上ない歓びであります。そしてこの素晴らしい四連演奏会が、さらに回を重ね、合唱界の発展に大きく寄与することを願ってやみません。



ヴォイス・トレーナー **山本健二**

昭和25年福岡高校在学中、西日本高等学校独唱コンクール第２位。昭和31年早稲田大学第一法学部卒業。在学中、グリークラブの学生指揮者として活躍。昭和41年第35回ＮＨＫ毎日音楽コンクール声楽部門入選。昭和55年第３回波の会日本歌曲コンクール歌唱部門第１位及び荻野綾子賞受賞。ニコラ・ルッチ、ロドルフォ・ルッチ、磯部俶、岡村喬生、中山悌一の各氏に師事。

共立女子大学合唱団、フレーベル少年合唱団、むさしの合唱団、稲門グリークラブ各指揮者。日本合唱指揮者協会会員。

## メッセージ

四連は合唱界におけるハイライトの一つといっても過言ではないであろう。文字通り東西を代表する大学の男声合唱団の競い合うが如き演奏は毎年興味深く待たれるものである。……とここまでは第三者の立場としてではあるが当事者にとってみれば音楽上の向上を目指して悪戦苦闘の連続なのである。その一端である発声を担当する者にとってもレベルの保持とよりよいひびきの増量に腐心するのである。聞く人の心に素直に染み込むひびきが或るときは豊かに感動的に或るときは涙をさそうが如き淋しさをもって言葉と音楽の流れに一体となる声作りに励むのである。しかしながらこれらのことは全て感覚の領域のことなのでオシログラフでも捉えることかなわず自らの感覚を頼りに判断を繰り返すのである。合唱団の声はそれを指導するヴォイストレーナーの鏡のようなものであろう。うまくいかないときは己れの醜き姿をみるが如き惨めさを味うのである。マスの効果を頼りに美しき鏡となって歌い上げてくれることを祈る。


The 18th Joint Concert

神戸三大学交歓合唱演奏会

1984年６月30日(土)
開演6:30PM
神戸文化ホール

Ⅰ 神戸女学院大学コーラス部
女声合唱組曲「この地上」

Ⅱ 神戸市外国語大学混声合唱団
「メンデルスゾーン作品集」

Ⅲ 甲南大学グリークラブ
男声合唱組曲「三崎のうた」

Ⅳ 合同演奏
混声合唱組曲「水のいのち」
指揮 根津 弘
ピアノ 森本恵子

連絡先 富岡伸幸
TEL(078)452-6817





安くて近いコンパ会場

きよす

京都市上京区寺町今出川上ル
電話 231－5121・5122

ステージの出来映えを変えるコート

本日のステージコート
作成の店

司屋株式会社

大阪マーチャンダイズマート11階
TEL 06 (943) 3100

祇園平八

24時間営業
各店年中無休

京・四条大橋東(南座東) 電(075)541-3331代表

# 「シベリウス：6つの合唱曲」op.18

photo by A·Kinoshita

photo by A·Kinoshita

## 指揮・渡辺暁雄

1919年日本人の牧師を父に、フィンランド人の声楽家を母に東京で生まれる。1934年東京音楽学校(現、東京芸術大学)器楽科に入学。ヴァイオリンを専攻。指揮をローゼンシュトックに学ぶ。1942年東京音楽学校研究科卒業ののち、ヴァイオリン、ヴィオラ奏者として活躍し、のちに指揮者に転向。1948年東京フィルハーモニー交響楽団初代常任指揮者に就任。1954年まで務める。1950年～52年アメリカのジュリアード音楽院指揮科に留学。ジャン・モレルに師事。1956年日本フィルハーモニー交響楽団の創設に参画、常務理事・音楽監督兼常任指揮者に就任。たちまちの内に第一級のオーケストラに育てあげた。1958年シベリウスをはじめとするフィンランド音楽の日本紹介の功により、フィンランド政府より獅子勲章第一級騎士賞を与えられた。1961年日本フィルハーモニー交響楽団と共にカナダ、アメリカ35都市を演奏旅行。また、フランス国立放送交響楽団定期演奏会に出演し、ヨーロッパで初の客演指揮活動を行なう。1962年～67年東京芸術大学教授(音楽部指揮科主任)も兼任し、後進の指導に当る。1963年シンフォニー・オブ・ジ・エアーを指揮してニューヨークにデビューを飾り、ミトロプーロス国際指揮者コンクールの審査員に招かれ、同年より3回審査員を務める。またフランス音楽紹介の功によりフランス政府より芸術文学勲章騎士賞を受賞。1965年ベルリン音楽祭に参加し、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮。また、カーネギーホールに於て、アメリカ交響楽団も指揮する。1966年日本芸術院賞受賞。1968年日本フィルハーモニー交響楽団を辞す。1969年国際的指揮活動を広く行うため、スイスのジュネーヴに移住。ヨーロッパでの指揮活動を行ない、その後現在まで広く海外各地での客演指揮を続けている。また、ロン＝ティボー音楽コンクール審査員も務める。1970年～72年京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者に就任。1972年～78年東京都交響楽団音楽監督兼常任指揮者に就任、同団の育成にあたった功績により、1978年東京都交響楽団初代名誉指揮者の称号が贈られた。1972年より社団法人日本演奏連盟理事。1977年フィンランド政府より白薔薇勲章コマンダー賞受賞。東京都交響楽団と共に東ヨーロッパ演奏旅行。1978年10年ぶりに日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督兼常任指揮者に復帰。また、その巾広い円熟の域に達した指揮により、日本芸術院会員に選出された。1979年毎日芸術賞受賞。1980年より東京芸術大学客員教授。1981年財団法人スターダンサーズ・バレエ団理事長。財団法人日本オペラ振興会理事。同年日本コロムビアより20年ぶりにふたたび行なった《シベリウス交響曲全集》の録音が第19回レコード・アカデミー賞を受賞。1982年ヘルシンキ・フィルハーモニー日本公演を指揮。作陽音楽大学学部長に就任。第12回モービル音楽賞受賞。1983年学校法人作陽学園理事に就任。1984年3月をもって日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督・常任指揮者を辞することになり、同団より創立指揮者の称号が贈られることになった。4月より広島交響楽団の音楽監督・常任指揮者に就任する予定。

19世紀初め、ナポレオン戦争に端を発し全ヨーロッパを覆った民族主義の波は、ロシアの支配下に入ったばかりのフィンランドをも襲った。13世紀以来のスウェーデンによる支配のために、スウェーデン語とフィン語という全く異なる二言語を公用語としていたこの国では、フィン語固有の文学が発展していなかった。しかし、東部カレリア地方を中心に古来より多くの口承詩が残されており、これに注目したエリアオ・リェンロートの努力により、それらは23,000行に及ぶ一大英雄叙事詩「カレヴァラ」として、また叙情詩集「カンテレタル」として1849年までにまとめられ、出版された。この出版はローカルな言語であったフィン語に国際的な地位を与え、フィンランド近代文学の出発点となった。これらの詩はフィン民族の心の故郷として今もなお愛されている。

民族の自覚が強まり、一方ロシアの支配が次第に圧政へと変化して行く中で、ヤン・シベリウスという若い作曲家がデビューする。1892年、ベルリン、ヴィーンへの留学を終えた彼のデビュー作は「カレヴァラ」に題材を求めた、ソプラノとバリトン独唱、男声合唱とオーケストラのための一時間を超える大作,「クレルヴォ交響曲」であった。この作品はフィンランド国民音楽の出発点として熱狂的な歓迎を受け、シベリウスはそれまで国際的な活躍の少なかったフィン民族の期待を一身に背負うのである。

シベリウスの作品中には、日本ではあまり知られていないが、多くの声楽作品がある。100余曲の独唱曲、60曲近くの無伴奏合唱曲、16曲の管弦楽伴奏付合唱曲がそれである。現在のフィンランドは国民の約1割がスウェーデン系で、シベリウスの時代には民族運動が高まってはいたものの多くの民族詩がスウェーデン語で書かれており、シベリウスの独唱曲も大多数がスウェーデン語の詩によっている。合唱曲にはかなりフィン語で書かれたものがあるが、どちらも馴れない言語、異常な音域の広さなどのため、一部を除いて本国以外では滅多に演奏されない。

「6つの歌」作品18は、1901年頃までにまとめられたもので、特に組曲としての意味はない。これら6曲は、作品14の「ラカスタヴァ(恋する者)」、有名な交響詩の中間部に愛国詩人コスケンニエミが詩をつけ、国歌の様に愛唱されている,「フィンランディア讃歌」等と共にシベリウスの男声合唱曲中最も知られたものである。1893年に作曲された第3曲「舟の旅」は当時「男声合唱の革命」と騒がれたが、現在では湖のボート遊びには欠かせない歌となっている。また「森の男の歌」はキャンプファイヤーを囲めば必ず出てくるという具合に愛唱されている。今宵、森と湖の国フィンランドの詩情をお伝えできれば幸いです。





### 1. Sortunut ääni(失われた声)〈カンテレタル〉

5／4拍子でわずか14小節からなる曲。悲しみのあまりつぶれてしまった声を嘆く歌。

| | |
|---|---|
| Mikä sorti äänen suuren, | 何が大きな声をこわしたのか。 |
| Äänen suuren ja sorian, | 大きな美しい声を。 |
| Äänen kaunihin kaotti, | 声の美しさは消えた。 |
| Jok' ennen jokena juoksi, | 昔、川の様に流れ、 |
| Vesivirtana vilasi, | 急流の様に逆巻き、 |
| Lammikkona lailatteli? | 池となって波立っていた。 |
| Suru sorti äänen suuren, | 悲しみが大きな声をこわした。 |
| Äänen suuren ja sorian, | 大きな美しい声を。 |
| Äänen armahan alenti,. | 声の恵みは低くなった。 |
| Jottei nyt jokena juokse, | 今は川の様に流れない、 |
| Vesivirtana vilaja, | 急流の様に逆巻くこともない、 |
| Lammikkona lailattele. | 池となって波立つこともない。 |
| Suru sorti äänen suuren, | 悲しみが大きな声をこわした。 |
| Äänen surren ja sorian. | 大きな美しい声を。 |

### 2. Terve kuu(月よ、御気嫌よう)〈カレヴァラ第49章より〉

魔女ロウヒによって岩屋に捕えられた太陽と月を英雄ヴァイナモイネンが解放し、挨拶を送る。

| | |
|---|---|
| Terve, kuu, kumottamasta, | 御気嫌よう、月よ、輝いているね |
| kaunis, kasvot näytämästä, | 美しい顔を見せているね、 |
| päiväkulta, koittamasta, | 金色の日は昇っている、 |
| aurinko, ylenemästä! | 太陽は空高くに。 |
| Kuu kulta, kivestä pääsit, | 金色の月は石から逃がれ、 |
| kalliosta päivä kaunis, | 美しい太陽は岩から出て。 |
| nousit, kuu, | お前は昇る、月よ。 |
| kullaisna käkenä, | 黄金の郭公の様に、 |
| hopeisena kyyhkyläisnä, | 銀の小鳩の様に、 |
| terve, aurinko, | 御気嫌よう、太陽よ、 |
| elollesi entiselle, | お前の昔の状態へ、 |
| matkoillesi muinaisille! | お前の昔の旅路へ。 |
| Nouse aina aamusilla | いつも朝には昇ってくれ、 |
| tämän päivänki perästä. | この日より後には。 |
| Teepä meille terveyttä, | 我々に挨拶を送ってくれ、 |
| siirrä saama saatavihin, | 獲物が捕れるよう連れて来てくれ。 |
| nouse, nouse! | 昇れ、昇れ、 |
| Pyytö päähän peukalomme. | 親指の先に獲物を、 |
| onni onkemme nenähän! | 釣針の先には幸福を。 |
| Päivä kaunis, | 美しい日よ、 |
| terve ylenemästä, | 御気嫌よう、空高くに、 |
| terve koittamasta! | 御気嫌よう、昇っているね。 |
| Käy nyt tiesi tervehenä. | これからも元気に行ってくれ。 |
| Matkasi imantehena. | お前の旅は素晴らしい。 |
| Päätä kaari kaunihisti. | 美しい弧を描いて、 |
| pääse illalla ilohon! | 夕方を楽しみに行け。 |

### 3. Venematka(舟の旅)〈カレヴァラ第40章より〉

英雄ヴァイナモイネンが舟に乗って北方の国ポヒョラへ魔法の挽臼を探しに行く。

| | |
|---|---|
| Vaka vanha Väinämöinen | 強固な老ヴァイナモイネンは |
| laskea karehtelevi | ザザーッと漕いで行く、 |
| tuon on pitkän niemen päästä, | あの長い岬の端から、 |
| kylän kurjan kuuluvilta, | みすぼらしい村から、 |
| laski laulellen vesiä, | 歌いながら水上を漕いで行く、 |
| ilon lyöen lainehia. | 楽しげに波を打ちながら |
| Nejet niemien nenissä | 岬の先で娘たちが |
| katsélevat, kuuntelevat: | 眺め、聴きほれている。 |
| "Mi lienee ilo merellä, | 「海上での幸福は何だろう。 |
| mikä laulu lainehilla, | 波の上での歌は何だろう。 |
| ilo entistä parempi, | 幸福は以前のより秀れ、 |
| laulu muita laatuisampi." | 歌は他よりも豊富だ。」 |
| Laski vanha Väinämoinen, | 老ヴァイナモイネンは漕ぎ進む。 |
| laski päivän maavesiä, | 一日目には湖を、 |
| päivän toisen suovesiä, | 二日目には沼を、 |
| kolmannen kosen vesiä, | 三日目には急流を。 |
| laski laulellen vesiä, | 歌いながら水上を漕いで行く、 |
| ilon lyöen lainehia. | 楽しげに波を打ちながら。 |

### 4. Työnsä kumpasellaki(どちらにも仕事がある)〈カンテレタル〉

「島の火」という通称で知られる曲。愛し合う男女がお互いの仕事について語っている。

男の仕事は焼き畑農業、女のは金糸銀糸で布に刺繍することである。互いの仕事を語るのは婚約の印である。

| | |
|---|---|
| Saarella palaa. | 島で火が燃えている。 |
| Tuli saarella palavi; | 火が島で燃えている |
| Kenpä toulla tulta | 誰かあそこで |
| poltti? | 火を燃やしているのか |
| Sulho tuolla tulta poltti. | 恋人があそこで火を燃やしている。 |
| Mitä sulho raatelevi? | 恋人は何の仕事をしているのか。 |
| Korjoansa kirjottavi. | 彼の橇を飾っている。 |
| Mitä tuolla korjasella? | あそこの橇で何をしているのか。 |
| Neittä tuolla korjasella. | 娘があの橇にいる。 |
| Mitä neito raatelevi? | 娘は何の仕事をしているのか。 |
| Neito, kultakangasta kutoo, | 娘は、金色の布を織り、 |
| hopeaista helkyttaa. | 銀色のものをキラキラさせている。 |

### 5. Metsämiehen laulu(森の男の歌)〈アレクシス・キヴィ〉

森の生活の楽しさを歌った快活な曲。タピオラとは森の神の国のことである。詩人キヴィは19世紀半ばに活躍し、フィンランド近代文学の祖といわれる。

| | |
|---|---|
| (1) Terve, metsä, terve, vuori, | やあ森よ、やあ山よ、 |
| terve, metsän ruhtinas! | やあ森の王よ。 |
| Täss' on poikas uljas, nuori; | ここに若く勇敢な少年がいる。 |
| esiin käy hän, voimaa täys; | 彼はみなぎる力とともに現れる。 |
| kuin | まるで |
| (tuima) tunturin tuuli. | 北方の荒山に吹く風のように。 |
| Metsän poika tahdon olla, | 森の少年は |
| sankar' | そそり立つ |
| jylhän kuusiston, | 樅の林の英雄でありたい。 |
| Tapiolan vainiolla | タピオラの荒野で |
| karhun kanssa painii lyön | 熊と取っ組み合いをして |
| ja maailma unholaan jääköön. | この世の憂さを忘れよう。 |
| (2) Viherjällä laattialla, | 緑の床の上で、 |
| miss'ei seinät hämmennä, | 立ちふさがる壁もなく、 |
| tähtiteltin korkeen alla | 高い星のテントの下で |
| käyskelen ja laulellen, | 歩いたり、歌ったり、 |
| ja kaiku ympäri kiirii. | そしてこだまがあたりに響く。 |
| Kenen ääni kiirii siellä? | 彼方で響くのは誰の声？ |
| Metsän immen lempeän! | 愛らしい森の娘の声だ。 |
| Liehtarina miehen tiellä | 楽しそうに男達を道案内して |
| hienohelma | 美しいスカートで |
| hyppelee, | 飛び跳ねている。 |
| ja kulta kiharat liehuu. | そして、金の巻毛がゆれている。 |
| (3) Ihana on täällä rauha | この地の平和はすばらしい。 |
| urhea on taistelo: | 戦闘は勇ましい。 |
| Myrsky käy ja metsä pauhaa, | 嵐が来て、森はどよめき、 |
| tulta iskee pitkäinen | 稲妻が命中して |
| ja kuusi ryskyen kaatuu. | 樅の木がドドッとたおれる。 |
| Metsän poika tahdon olla, | 森の少年は |
| sankar' | そそり立つ |
| Jylhän kuusiston, | 樅の林の英雄でありたい。 |
| Tapiolan vainiolla | タピオラの荒野で |
| karhun kanssa painii lyön, | 熊と取っ組み合いをして |
| ja maailma unholaan jääköön. | この世の憂さを忘れよう。 |

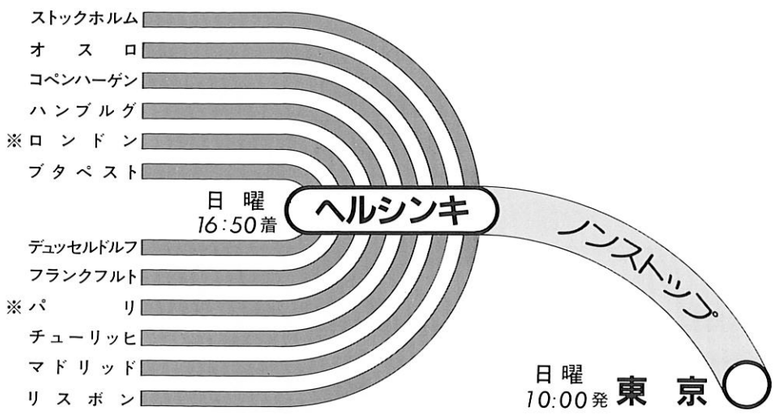
### 6. Sydämeni laulu(我が心の歌)〈アレクシス・キヴィ〉

子に先立たれた親が、あの世での我が子の楽しい生活を想って自らの慰めとする。トゥオネラは死者の国のこと。

| | |
|---|---|
| Tuonen lehto, öinen lehto! | トゥオネラの緑の森、夜の森。 |
| Siell' on hieno | そこには |
| hietakehto, | 美しい砂の揺りかごがある。 |
| sinnepä lapseni saatan. | そこへ我が子を送ろう。 |
| Siell' on lapsen lystiolla. | そこでその子は楽しいことだろう。 |
| Tuonen herran vainiolla | トゥオネラの主人の牧場で |
| kaitsea Tuonelan karjaa. | トゥオネラの家畜を |
| | 飼うことだろう。 |
| Siell' on lapsen lysti olla, | そこでその子は楽しいことだろう。 |
| illan tullen tuuditella | 夕べの風が吹いて、 |
| helmassa Tuonelan immen. | トゥオネラの娘の腕で |
| | ゆられることだろう。 |
| Onpa kullan lystiolla | かわいい子は楽しいだろう。 |
| kultakehdoss' kellahdella, | 金のゆりかごにゆられながら、 |
| kuullella kehräjä lintuu. | またかのさえずりを聞くだろう。 |
| Tuonen viitaa, rauhan viitaa! | トゥオネラの緑の森、平和な森。 |
| kaukana on vaino, riita, | 迫害と争いから離れ、 |
| kaukana kavala maailma. | いつわりの世界から離れて。 |

| To / From | 慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団 | 関西学院グリークラブ | 早稲田大学グリークラブ | 同志社グリークラブ | 甲南女子大学コーラス部 | 神戸女学院大学コーラス部 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団 | | A： 関西学院グリークラブって、もの凄く大所帯なんだって。<br>A： それは凄いよ。今春の姫路の演奏会なんて圧巻だったね。<br>A： どんな風に？<br>B： 幕が上がる時、最前列のグリーメンが、幕にスレスレで、ステージ上は、人・人・人の嵐だったよ。<br>A： なるほど。<br>B： そして演奏はいつもの精巧で上手だよ。 | A： 早稲田大学グリークラブの人ってどんな感じの人なんだろうか。<br>B： 学指揮を見れば、わかるだろ。<br>A： え！学指揮ってどんな人。<br>B： ほら、夜の新宿に、タンパンとタイツで、出没する人だよ。<br>A： じゃあ学指揮以外では。<br>B： うーん。そうそう、いつでもどこにいてもすぐわかるおでこが魅力的な部長さん。 A： なるほど。<br>B： だから、いつも超熱演なんだよ。 | A： 同志社グリークラブの人、知ってるかい。<br>C 子：うん、いい人達ばかりね。<br>A：たとえばどんな風に。<br>C 子：大きな山のような責任者さん、いつも清潔感あふれる学指揮さん、そして質実剛健、沈着冷静でいつも誠実な四連マネさんのように。<br>A：なるほど<br>C 子：だから、演奏は熱気がこもっていて、素晴らしいのよ。 | A：甲南女子大学コーラス部についてひと言どうぞ。<br>B：あんまり知らへんけど、演奏は確かにうまい。きれいな人ばっかしで、やっぱり良いコーラス部ですよ。すっきやで〜…。<br>A：ハイ、ハイ、どうも有り難うございました。 | I：神戸女学院大学コーラス部についてひと言どうぞ。<br>T：とってもいいコーラス部ですよ。年末にはコンパを開いてくれるし、定演には東京まで聴きに来てくれる人もいるし、それになんて言ったってみんな才色兼備ですからね。<br>I：どうも有り難うございました。 |
| 関西学院グリークラブ | A：慶應のワグネルって、ほら去年ＮＨＫで歌を歌ってたろ？<br>B：へーえ、その割に無名やな。<br>A：まぁ徳川家康の主題歌だしね。<br>B：確か、うなってるだけで歌詞無かったろ。<br>A：まぁ、うちのＳのソロみたいなもんや。<br>B：それでいつまでも人から認められんのか。 | | A：早稲田って何か他の三大学と違うなぁ。<br>うん、何だか特別異様やなぁ。<br>B：少しきたないイメージもあるね。<br>A：大体、去年の東京での四連の打ち上げからしてきたなかったもんな。<br>B：もっと人間らしい部員をそろえてほしいね。 | A：同志社グリーのトップてすごいなあ。<br>B：ウン、N氏はすごかったね。<br>A：高音を根性で頑張るもんなぁ。<br>B：ウン、N氏はすごかったね。<br>A：でも、男声合唱って四部でやるのに、バランスが今一つって所かな。<br>B：え？同志社グリーにもトップ以外のパートってあったっけ？ | A：南女さんか〜！いい所やで！あそこは！<br>B：わしもそう思う。<br>A：俺なんか、３年連続で学祭のバッハに通ってるもんね〜！<br>B：エ〜！おまえもやったんか！<br>A：なんや、おまえもか。絶対！今年も行くもんね。あの雰囲気がたまらんわー。<br>B：わしもそう思う。 | A：おいおい、あの女の人絶対女学院やで！<br>B：ほんまか〜！<br>A：絶対やて！雰囲気でわかるやろ！あのひとつまわりと格の違う感じが漂ってるやんか！<br>A：おいおい、声かけに行こうや！ほれ！<br>B：あの〜、お隣りの関学の者ですけど〜！お友達になってもらえません？ |
| 早稲田大学グリークラブ | A：ワグネルだってよ　B：エッ？<br>A：エッじゃないよ、ワグネルだよ。<br>B：へェー。<br>A：おまえわかってるの？　B：全然<br>A：ワグネル知ってる？　B：イヤ。<br>A：あのワグネルだよ。　B：どの？<br>A：ほら、いつもハモる合唱団だよ。ワセグリのライバルでさ。<br>B：あっ思い出した！エリマキトカゲだろう。<br>A：近いよ。 | A：関学の原稿、どうする？<br>B：ちょっ、ちょっ、ちょっと待ってくれ。Ｉに聞いてくる。(by学指揮)<br>A：あーあ、人間は<br>B：ウップ、ゲロゲロゲロ　at東京六連 (by Ｅ)<br>A：と言いつつも、関学のうまさにいつも僕は舌を巻く。<br>B：ウップ、ベロベロベロ<br>A：おまえ、ちゃんと聞いてるのか！反省会でイタぶるぞ。 | | A：同グリとしゃべるとアホになるぜ。<br>B：しゃべるだけで済めばな。<br>A：おまえ、悲惨な過去があるの？<br>B：まァな。<br>A：どんな？<br>B：言葉にできない。<br>A：陽ちゃんがいつもおっしゃるね。「ワセグリも同グリも変わらない」って。<br>B：じゃあ、俺らとしゃべるとアホになるんか？<br>A：言葉にできない！<br>B：ハハハハ | A：先輩が言ってたな。アメリカで見た女の子達、最高だったって。<br>B：皆そういうからな<br>A：しばらくぶりの日本人だったから。<br>B：皆そういうからな。<br>A：みんなかわいくてさ。歌がうまくてさ。<br>B：皆そういうからな。<br>A：おまえも認めない男だね。今年の8月のJOINT、カットするぞ。<br>B：ナンジョって、ナーイス！ | A：連想ゲーム。神戸。<br>B：港。ポートピア。パン。<br>A：それから？　B：六甲おろし。<br>A：それから？　B：それだけ。<br>A：大事なもの忘れてるだろう。<br>B：ん？　A：神戸女学院だろ<br>B：忘れた。<br>A：バカモン！8月にJOINTでいっしょに歌うだろう<br>B：本当!?ぼく、うれしいな。女学院って美人で上品だから好きさ。 |
| 同志社グリークラブ | 男Ａ：僕ら西の慶應って呼ばれてんだぜー。ベイビー。<br>男Ｂ：姉ちゃん茶行かへんけー。<br>女：なんや、あんたら関学の人達やの。<br>男ＡＢ：ギーッ。 | A：ケーッ。あれが憧れの関学グリーだ。<br>B：シブーッ。合コンしようぜ、合コン。<br>A：アホ、ありゃ上ケ原牧場の雄ウシばっかりなんだぜー。<br>B：なーんや。ほんなら次あたろうぜ、次。 | A：♬〜みいや、このせいほく、わせだーのもりに〜♬<br>B：なんやそれ、聞いたことあらへんわ。<br>A：お前知らへんのけ、これが早稲田大学歌や。<br>B：あ〜知ってる知ってる、昔日刊アルバイト情報の宣伝で、斎藤慶子とウシが出てた時歌ってたやっちゃろ〜<br>A：知ったかぶり、本領発揮 | | A：甲南女子大学のスクールバス、あれなかなかカッコイイね。<br>B：一度乗ってみたい。<br>A：アホッ。お前が乗ったって誰も相手にせんわい。<br>B：僕はスクールバスの運転手になりたいんだい。 | A：神戸女学院と同志社との相性はいいんやでー。だってうちのオヤジとオフクロは同志社と神戸女学院出身やもんね。<br>B：ヨッシャ、合コンやろうぜ。<br>C：ちなみにうちの両親は某大学と神戸女学院ですが、つい先日に離婚しました。 |
| 甲南女子大学コーラス部 | A：慶応ワグネルだって<br>B：去年は、毎週日曜に会えてたけど、お会いできなくてさびしいわ。<br>A：でも、今日、久々にお会いできるからいいじゃない。<br>B：サインもろとこ——。 | A：あそこのキャンパス広くてきれいダネ。<br>B：中芝に行けば、グリーの人に会えるって聞いたけど<br>A：うん、彼女といるんじゃなくて、みんなで「ン〜〜、ミ〜〜」って鼻を響かせているんだって。ハッハッ！ | A：早稲田グリーって、どんな団かな？先輩方は、とってもいいって言ってたけど……<br>B：ンー。ホントどうかな。でも、今度、夏に会えるし<br>A：そのときじっくりと<br>B：ウワー。楽しみネ!! | A：うちと同グリさん体質似てるネ。<br>B：なんでかなー。<br>A：ま、いろいろとあるし……。<br>B：エー。何かあんのー。<br>A：まァ、まァ、へへ。 | | A：あこがれるわね。<br>B：ウン、ホント、すてきやわ<br>A：きれいな人ばかりだし、歌もうまいし……<br>指揮者より一言、「うらやましいー」<br> |
| 神戸女学院大学コーラス部 | B：かたぎって言えば、K夫もそれ。<br>A：City Boyだけど、やっぱりグリーのかたさが残ってて…。<br>B：でも年に１回のコンパが楽しみね。<br>A：そう、K夫が彦星なら女学院は織姫ってとこね。フフフ… | A：まず近い所から改めよか。K君は？<br>B：う〜ん、さすがの落ち着きだけど、数の暴力という説もあるねぇ。<br>A：いもづるのよーな結束力!!<br>B：一人でラーメン屋に行けないというのは本当だろうか…？<br>A：でも、かたぎっぽくていいやんか。 | B：今一番 興味津々なのは、W彦よ。<br>A：でも高田馬場ってみんなジャージ着て歩いてるみたいよ。<br>B：そこに、若者の生命力を感じませんか？<br>A：はっきり言って生ける化石やで。<br>B：そーかぁ。 | B：D助にはファンが多い。<br>A：そうらしいけど、あいつはのろまなカメだぜ。たまらなく。<br>B：あの地道なところと過激なところのコントラストが、いいんじゃない。<br>A：星飛雄馬の世界かいな。 | A：N子って美人の上に気だてはいいし歌もうまいときたもんだ！<br>B：N子の話すると、思わずドクダミのよーに卑屈になるわね。私ら根が吉本興業やし。<br>A：向こうは花の岡本からスクールバス、こっちは西宮から猪タクシー、その違いじゃないかー。<br>B：土地がらっておそろしいほど表にでるもんね。 | |

# ヨーロッパへ
# 初めてのノンストップ便
# フィンランド航空。




※印は翌日コネクションです。

日曜午前10時東京発(成田)。
ノンストップで同日夕刻にはもうヨーロッパへ。疲れを知らない快適なフライトがヨーロッパへの旅をぐんと気軽にしました。お帰りも金曜発の土曜着と便利な1週間きざみ。

**FINNAIR**
北欧の翼フィンエアー(フィンランド航空)

〒541 大阪市東区本町4丁目4-1本町野村ビル TEL. 06-261-0403 〒107 東京都港区元赤坂1丁目7-8ガテリウスビル TEL. 03-423-0423

ご予約、お問い合わせは、最寄の旅行代理店またはフィンランド航空へ。

**予約・発券 大阪・06-261-0403 東京・帝国ホテル内 03-580-9231**



フィンランドのお食事とお飲みもの

# FINLANDIA

RAVINTOLA フィンランディア
〒600 京都市下京区五条通柳馬場西
TEL.(075)351-7689. 351-4303


## 第21回 旧三商大交歓演奏会

一橋大学コール・メルコール, 大阪市立大学グリークラブ, 神戸大学グリークラブ

合同演奏：男声合唱組曲「蛙の歌」 作詩 草野心平 作曲 堀 悦子 指揮 斉田好男

1984年6月26日(火) 開場 6:00P.M. 開演 6:30P.M. 於 神戸文化ホール チケット¥400

〈連絡先〉078-453-1085 三谷雅彦

## 三大学サマージョイント in 大阪

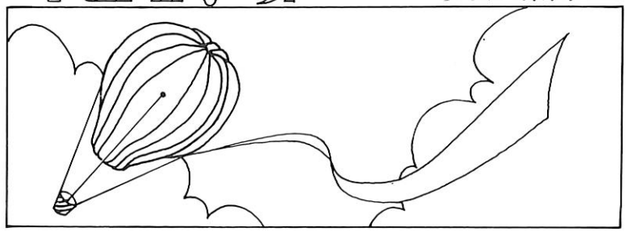
早稲田大学グリークラブ
神戸女学院大学コーラス部
甲南女子大学コーラス部

**1984年8月2日(木)p.m5:30開場 p.m6:00開演**
**大阪府立労働センター大ホール**

Ⅰ. **愛唱曲集** 指揮/新井康之
Ⅱ. **女声合唱組曲「この地上」** 指揮/原 美希子 神戸女学院大学コーラス部
Ⅲ. **「四つの女声合唱曲」より「五つのわらべ歌」より** 指揮/村上知子 甲南女子大学コーラス部
Ⅳ. **月光とピエロ** 指揮/利光敬司

■全席自由 800円 ■連絡先 同志社グリークラブBOX TEL.075(451)9725

## 花詩集 ―夢咲き案内―



♪親和女子大学コーラス部「こどもの国」
♪近畿大学文化会グリークラブ「月下の一群」
♪大谷女子大学合唱団「風花の舞」
♬合同ステージ「花さまざま」
客演指揮 山本寿太郎

**1984年7月5日(木) PM6:00開演 森の宮ピロティホール ¥500**

# ニュー ミュンヘン 南大使館

和室200名・中華ルーム100名・貴賓室70名・大ホール500名
生ビール、和食、洋食、中華、喫茶

**募 集**

長期学生アルバイト
学生コンパ大歓迎

南区千日前プラザビル2F
Tel. 211－8827
8828

●営業時間
平日　PM3:00～23:00
日祝日　PM12:00～23:00

# SAM Records

録音全般・各種レコード製作
株式会社 阪神ライブレコーディング
〒651　神戸市中央区上筒井通5－2－10
TEL（078）241－1899（代）





## ―― 旅はロマン・感動の時 ――

歌は心をやさしくつつみ 旅は心を大きく開く。
新しい出会いにきらめく感動とロマンを提供する富士海外旅行。

海外旅行・国内旅行――あらゆる旅に関する情報をご紹介します。

# 富士海外旅行株式会社

〒530 大阪市北区堂島浜通2-1-1（サントリービル） 電話 (06) 345-1281(代)

過去5回の関西学院グリークラブ海外コンサートツアーは弊社にてお世話させていただきました。

# （株）大阪フォト サービス カンパニー

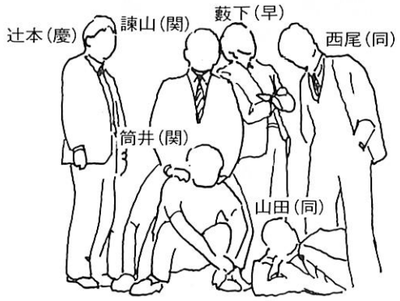
大阪市西区江之子島1丁目5－17
PHONE 06（443）7608（代表）

## 〈編集後記〉

振り返ってみれば楽しかった事のみが思い出されるこの一年間でした。今年の四連理事は全員関西出身という事で例年以上に会う機会が多くマネージャーはもとより四大学の親睦交流が深まった様な気がします。

この第33回四連を開催するにあたり当初からホール取り、土曜昼夜公演ということでの観客動員の不安etc…数々の困難な問題にぶち当たりましたが、何とか今日の演奏会にまでこぎつけました。私共学生の無理な要望に答えて下さった諸先生方、その他御迷惑をおかけしました方々に心より感謝致しております。私共は四連を愛しております。四連が全てでした。今後も皆様方に愛され「六月になれば四連」と親しまれる演奏会にする様不断の努力をしていく覚悟でございます。これからも何卒東西四大学を宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたがお忙しい中原稿をお寄せ下さいました諸先生方、快く広告の掲載を承諾下さいました広告主の皆様、フィンランド語の発音を御指導願いました阪田文保氏はじめ京都フィンランド協会の皆様、そして毎回の事ながら今回も多大な御迷惑をおかけした中央印刷の皆様、またその他この演奏会を催すにあたり御支援御協力して下さった方々にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。本当に有難うございました。





ひとつの製品を完成させるにあたり、各分野の専門スタッフが、全力を傾注しています。正確に、スピーディに、しかも、密度の高いものを目指し、ひとつの輪は、今日も明日もたゆまず動きつづけます。

★

★

## いま、何かをお求めなら

グリーメンの良きアドバイザー。

★

★

印刷を通じて気さくなおつきあい

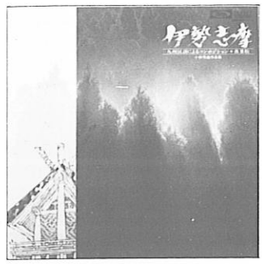
**中央印刷株式会社**

本　社・企画室　〒542 大阪市南区谷町6丁目6番7号　TEL. 06(763)2632(代)
事務所・工　場　〒593 堺市鳳東町5丁487-56　TEL.0722(73)1151(代)




# 素晴しいハーモニーの東芝合唱シリーズ

## 現代合唱曲シリーズ　各¥2,300



小林秀雄作品集
### 「伊勢　志摩」

●TA-72117
A)①混声合唱組曲「伊勢　志摩」
B)①混声合唱組曲「伊勢　志摩」
②演奏会用女声合唱曲
「九州民謡によるコンポジション」
③女声合唱曲「落葉松」
A）B）①福永陽一郎指揮／岩手大学合唱団
B）②③北村協一指揮／中国短期大学フラウェン・コール
(ピアノ伴奏) 久邇之宣

多田武彦作品集
### 「尾崎喜八の詩から」

●TA-72111
A)男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」
B)男声合唱組曲「北陸にて」
北村協一指揮
A）関西学院グリークラブ
B）同志社グリークラブ

多田武彦作品集
### 「中原中也の詩から」

●TA-72091
A)①男声合唱組曲「中原中也の詩から」
B)①男声合唱組曲「在りし日の歌」
②男声合唱組曲「冬の日の記憶」
A）①北村協一指揮
立教大学グリークラブ
B）①北村協一指揮
関西学院グリークラブ
②福永陽一郎指揮
同志社グリークラブ

多田武彦作品集－三好達治の詩による－
### 「わがふるき日のうた」
### 「海に寄せる歌」

●TA-72077
A)男声合唱組曲「わがふるき日のうた」
B)男声合唱組曲「海に寄せる歌」
福永陽一郎指揮
同志社グリークラブ

平吉毅州・三枝成章作品集
### 「さすらいの船路」
### 「川よとわに美しく」

●TA-72083
A)男声合唱のための組曲「さすらいの船路」
B)男声合唱組曲「川よとわに美しく」
北村協一指揮
A）関西学院グリークラブ
B）立教大学グリークラブ
(ピアノ)久邇之宣
(シンセサイザー) 向谷　実

三木　稔・間宮芳生作品集
### 合唱による風土記～「阿波」
### 合唱のためのコンポジション「第三番」

●TA-72086
A) 合唱による風土記～「阿波」
B) 合唱のためのコンポジション「第三番」
北村協一指揮
A）関西学院グリークラブ
B）早稲田大学グリークラブ

小倉　朗作品集
### 東北地方のわらべうた
### ・民謡による合唱曲

●TA-72100
A)「東北地方のわらべうたによる九つの無伴奏女声合唱曲」
B)「東北地方のわらべうたによる五つの無伴奏女声合唱曲」
「東北地方の民謡による七つの男声合唱曲」
福永陽一郎指揮
A）花巻女声合唱団
B）盛岡コメット混声合唱団(女声・男声)

清水　脩作品集
### 「アイヌのウポポ」
### 「日本民謡による男声合唱曲」

●TA-72101
A）アイヌのウポポ
B）日本民謡による男声合唱曲
「そうらん節」「八木節」「最上川舟唄」他
北村協一指揮
A）立教大学グリークラブ
B）慶応義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団
関西学院グリークラブ

## GLEE CLUB ALBUMS

●指揮:北村協一／福永陽一郎

### グリークラブ・アルバム（I）

●TA-60050　¥2,000
からたちの花
中国地方の子守唄
この道
帰ろ帰ろ
あわて床屋
青蛙(以上山田耕筰)
砂山(中山晋平)
姿やのお家(本居長也)
柳河(多田武彦)
遙かな友に(微部　叙)
水夫のセレナード(エアーソン)
いざ起て戦人よ(グラナ・ハム)
／他全22曲
●合唱：慶応義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団／関西学院大学、早稲田大学、同志社大学、各グリークラブ

### グリークラブ・アルバム（II）

●TA-60051　¥2,000
キリエ・エレイソン(デュオウバ)
アニュス・デイ(グノー)
レクイエム・エテルナム
(コルネリウス)
主は我が牧者なり(グラナ・ハム)
主の祈り(ケルネル)
菩提樹(シューベルト)
野ばら(ウェルナー)
ローレライ(ジルヘル)
／他全24曲
●合唱：慶応義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団／同志社大学、早稲田大学、関西学院大学、各グリークラブ

### グリークラブ・アルバム（III）

●TA-60088　¥2,000
最上川舟唄
大島節
ソーラン節
大阪子守唄
五つ木の子守唄
おてもやん
かぞえ唄
ちんちんちどり
出船
夕やけ小やけ
七つの子
夏は来ぬ
海
赤とんぼ
村祭り
雪のふる町を
螢の光
●合唱：慶応義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団／早稲田大学、同志社大学、関西学院大学、上智大学、各グリークラブ

### グリークラブ・アルバム（IV）

●TA-60089　¥2,000
年の別れ
春を待つ
雨
アカシアの径
見上げてごらん夜の星を
遠くへ行きたい
涙くんサヨナラ
君といつまでも
夜のうた
Gaudeamus
Heiling
Die Nacht
オレーグ公の歌
／他全18曲
●合唱：慶応義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団／関西学院大学、立教大学、上智大学、同志社大学、早稲田大学、各グリークラブ

### グリークラブ・アルバム（V）

●TA-72074　¥2,300
フィンランディア(シベリウス)
やまびこ(ラッソ)
いとしのマドンナ(ラッソ)
アヴェ・マリア(アルカデルト)
聖史曲(チャイコフスキー)
剣と竪琴(ヘーガー)
冬のセレナーデ(サン＝サーンス)
O Holly Night(アダム)
もみの木(ドイツ民謡)
／他全16曲
●合唱：慶応義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団／同志社大学、早稲田大学、関西学院大学、各グリークラブ

### グリークラブ・アルバム（VI）

●TA-72075　¥2,300
Swing Low Sweet Chariot(黒人聖歌)
Set Down Servant(黒人聖歌)
I've Got Six Pence
Home ward Bound
Erie Canal
Rolling Home
(以上シーシャンティー)
斎太郎節
(宮城県民謡)
烏原の子守唄
(宮崎一章)
音戸の舟唄
(広島県民謡)
／他全16曲
●合唱：関西学院大学、早稲田大学、同志社大学各グリークラブ／慶応義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団